

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査結果

I 調査概要

1 調査目的

平成26年度中に、平成27年度から平成29年度を計画年度とする「高松市高齢者保健福祉計画」を策定するための基礎調査として実施した。

2 調査設計

(1) 調査地域：高松市

(2) 調査対象・有効回収数（率）

調査種別	調査対象者	標本数	有効回収数	有効回収率
① 高齢者	65歳以上高齢者の方（介護保険施設サービス利用者の方を除く。）	9,000人	5,311人	59.0%
② 介護保険施設サービス利用者	65歳以上高齢者のうち、介護保険施設サービス（特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型病床群）利用者の方	500人	263人	52.6%
③ 一般市民	40歳以上65歳未満の方	1,000人	444人	44.4%
計		10,500人	6,018人	57.3%

(3) 調査方法：郵送配布－郵送回収

(4) 調査期間：平成26年2月3日～2月28日

3 報告書の見方

(1) グラフ中の「N (Number of case の略) はその質問の該当者数を表しており、回答率 (%) は、そのNを基数として算出した。

(2) 集計結果は全て、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の数値の合計が100.0% ちょうどにならない場合がある。

(3) 複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがある。

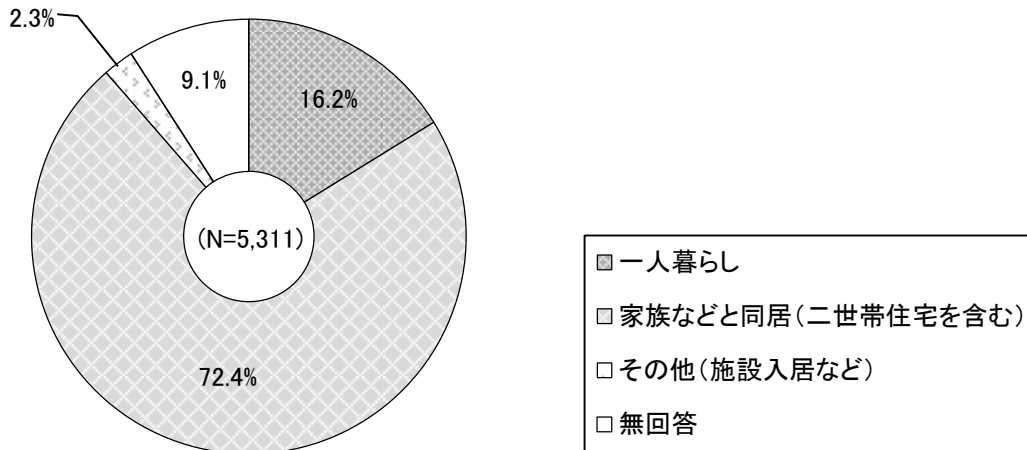
Ⅱ 調査結果まとめ

1 家族や生活状況について

(1) 家族構成

【調査①】

家族構成については「家族など同居（二世帯住宅を含む）」が72.4%と最も高くなっている。次いで、「一人暮らし」（16.2%）、「その他（施設入居など）」（2.3%）となっている。

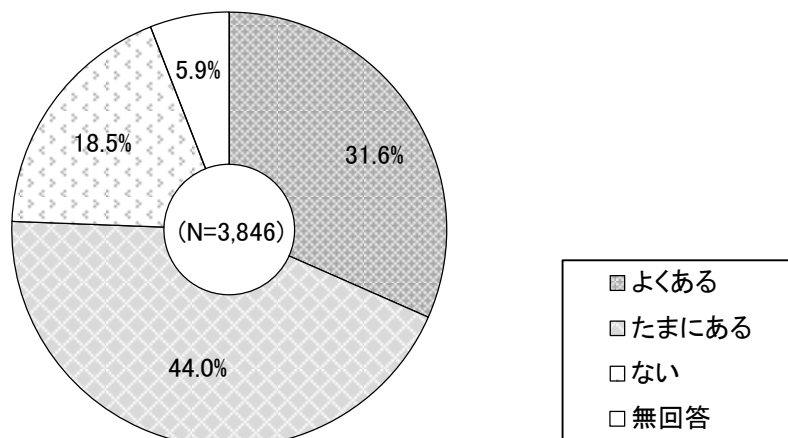


「家族など同居」と回答した人のみ

(2) 日中、一人になることの有無

【調査①】

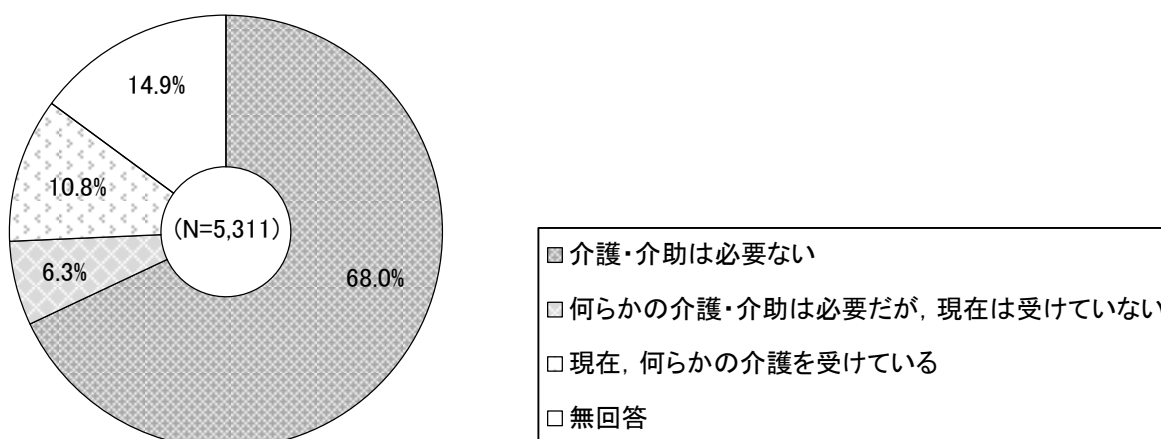
日中、一人になることについては、「たまにある」が44.0%と最も高くなっている。次いで「よくある」が31.6%となっており、合わせると約7割半ばの人が日中一人になることがあるという結果となっている。



(3) 普段の生活の中における、介護・介助の必要

【調査①】

普段の生活の中での介護・介助については、「介護・介助は必要ない」が 68.0%と最も高くなっている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(6.3%)、「現在、何らかの介護を受けている」(10.8%)を合わせても、介護・介助の必要がある人は 17.1%と 2割未満となっている。

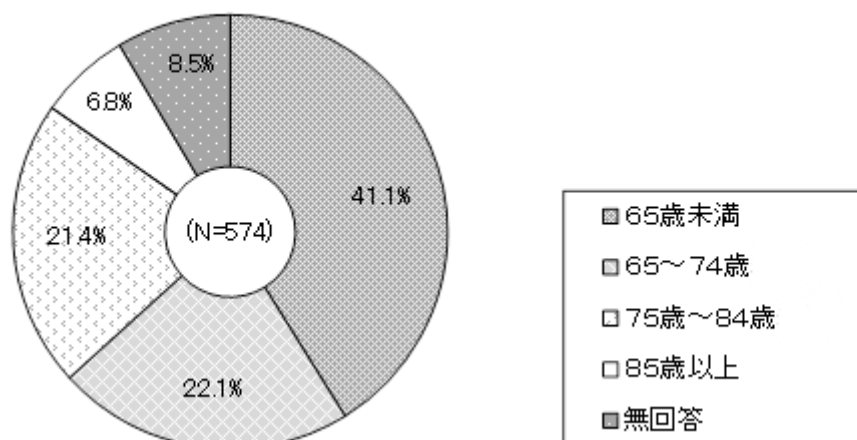


「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人のみ

(4) 介護・介助している方の年齢

【調査①】

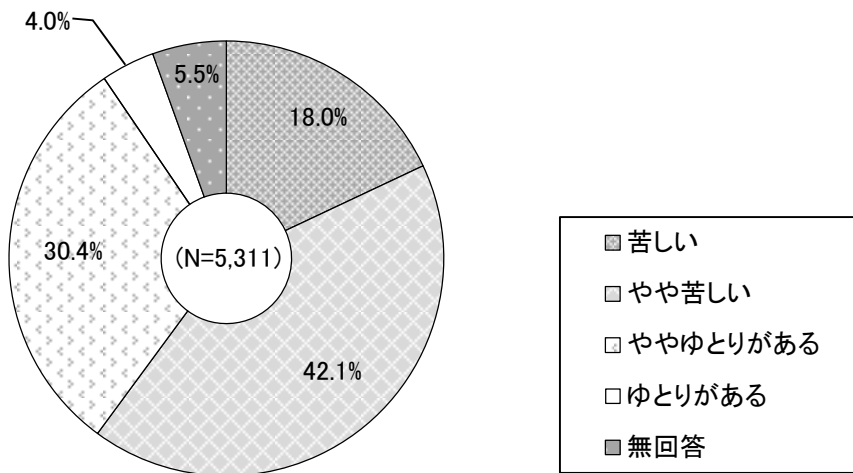
主な介護・介助者の年齢については、「65歳未満」が 41.1%と最も高くなっている。一方、「65～74歳」(22.1%)、「75～84歳」(21.4%)、「85歳以上」(6.8%)と合わせると、『65歳以上』と回答した人が約5割となっている。



(5) 経済的にみた現在の暮らしの状況

【調査①】

経済的にみた暮らしの状況については、「やや苦しい」が 42.1%と最も高くなっている。「苦しい」(18.0%) と合わせると、現在の暮らしは経済的にみて苦しいと回答する人が約6割を占める結果となっている。

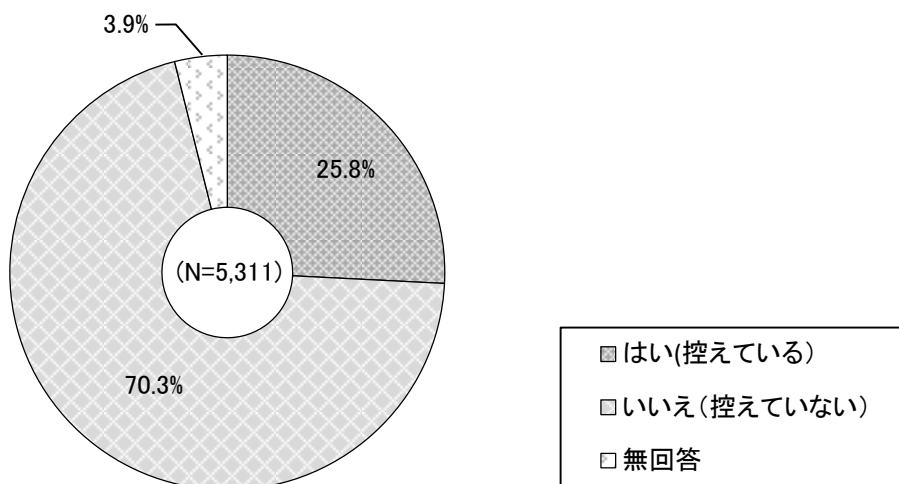


2 外出状況について

(1) 外出の状況

【調査①】

外出については、「いいえ（控えていない）」が70.3%と約7割を占める結果となっている。

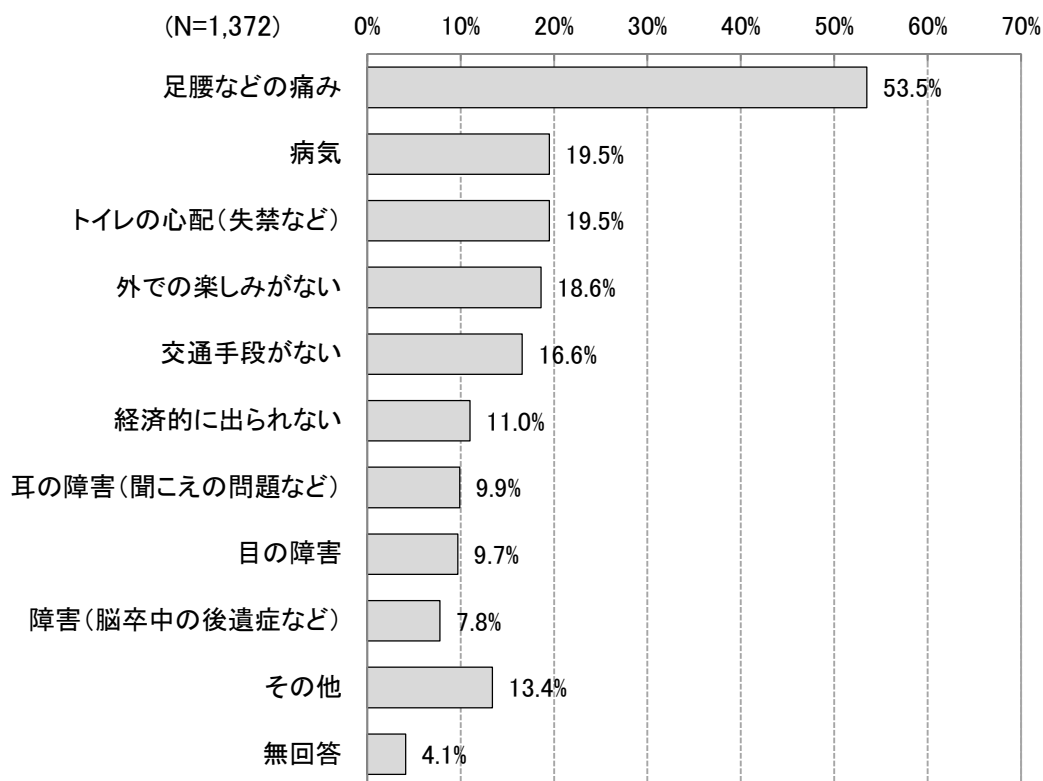


「はい（控えている）」と回答した人のみ

(2) 外出を控えている理由

【調査①】

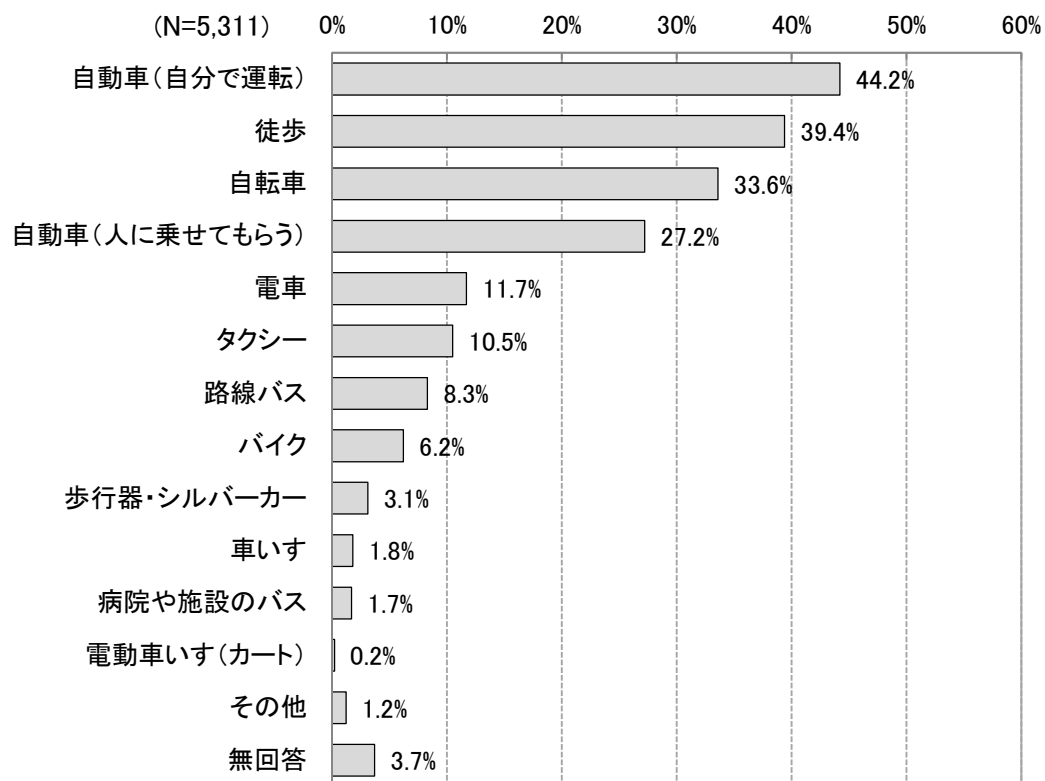
外出を控えている理由については、「足腰などの痛み」が53.5%と最も高く、他の項目と比較しても突出した割合となっている。次いで「病気」、「トイレの心配（失禁など）」がともに19.5%、「外での楽しみがない」（18.6%）、「交通手段がない」（16.6%）と続いている。



(3) 外出する際の移動手段

【調査①】

外出する際の移動手段については、「自動車（自分で運転）」が44.2%と最も高くなっている。次いで、「徒歩」（39.4%）、自転車（33.6%）と自ら動く移動手段で外出する人が多くなっている。



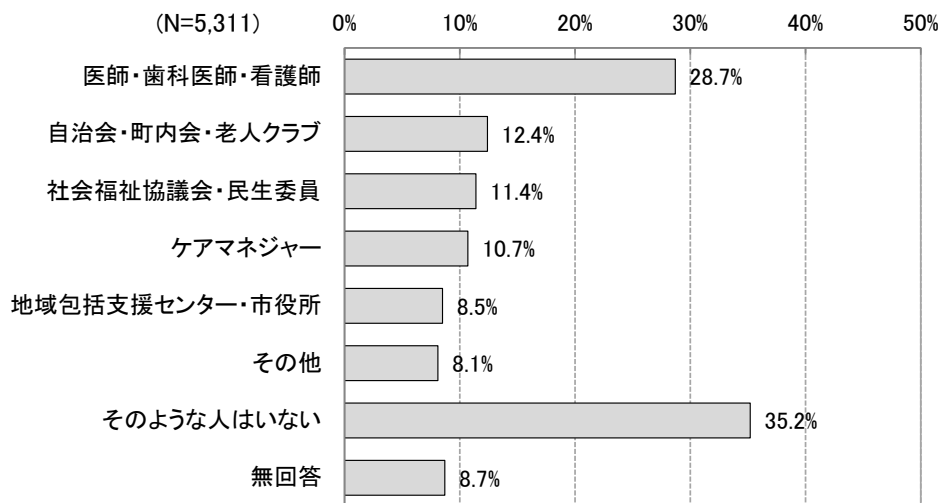
3 社会参加について

(1) 何かあったときに、家族や友人・知人以外で相談する相手

【調査①】

何かあったときに、家族や友人・知人以外で相談する相手については、「医師・歯科医師・看護師」が28.7%となっており、医療機関に相談する人の割合が高くなっている。次いで「自治会・町内会・老人クラブ」、「社会福祉協議会・民生委員」、「ケアマネジャー」が約1割、相談相手がいないと回答した方も3割半となっている。

【調査① 高齢者】

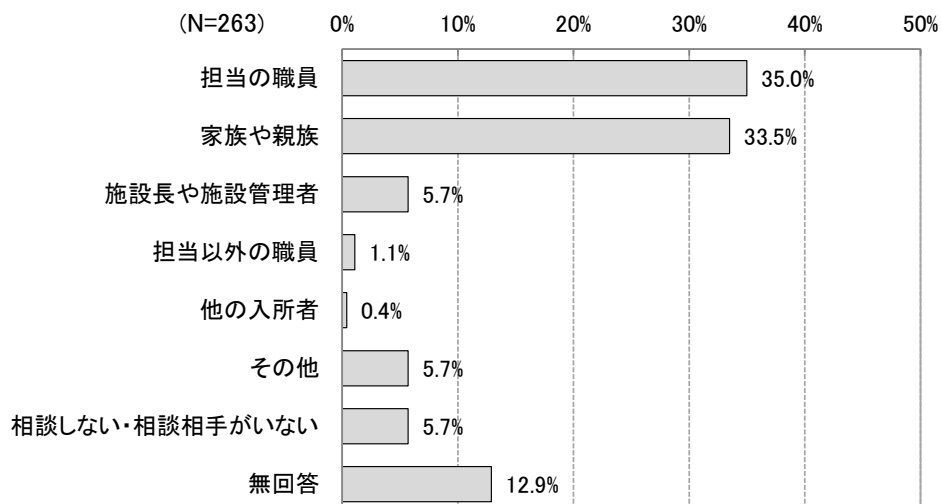


(2) 日常生活のことで相談する相手

【調査②】

介護保険施設サービス利用者が、日常生活のことについて相談する相手については、「担当の職員」が35.0%と最も高く、次いで「家族や親族」(33.5%)となっており、その他は1割未満となっている。

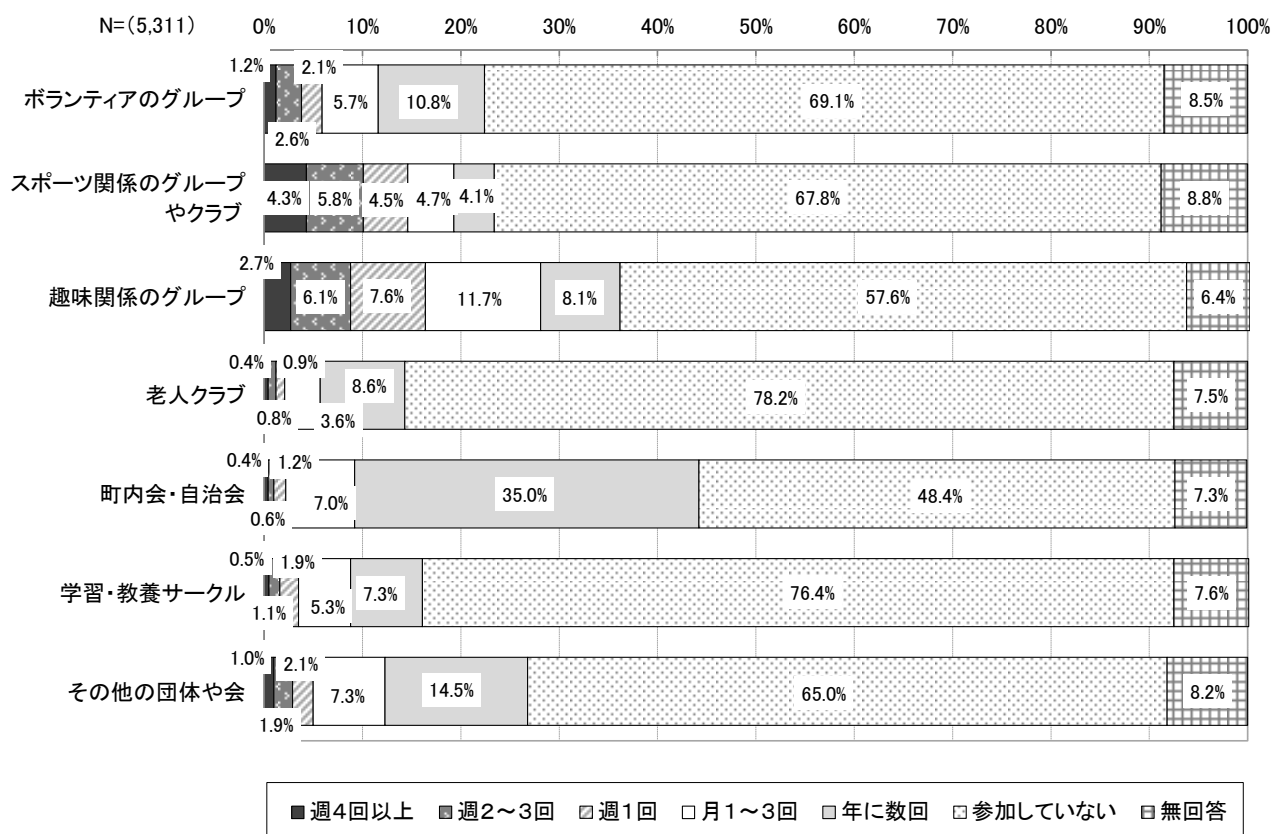
【調査② 介護保険施設サービス利用者】



(3) 地域活動への参加

【調査①】

地域活動への参加については、町内会・自治会への参加の「年に数回」が35.0%となっており、参加率が3割半ばを占めている。一方、「参加していない」は、老人クラブでは78.2%、学習・教養サークルでは76.4%となっており、約7割半ば～8割を占める結果となっている。

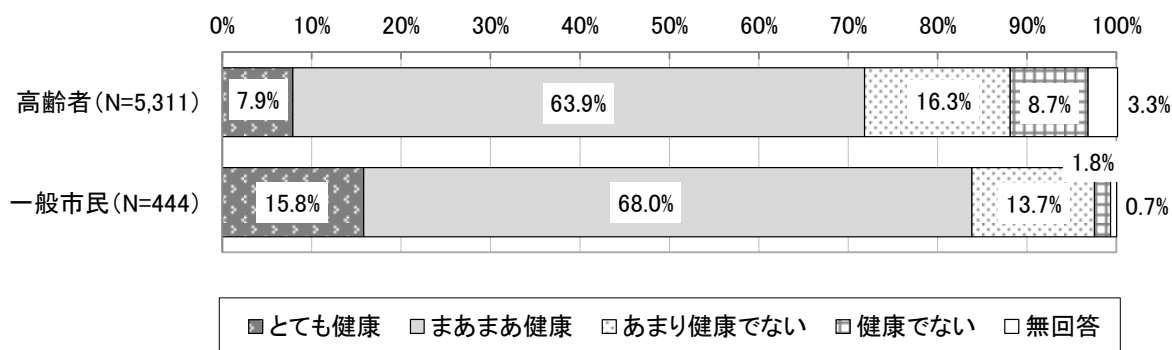


4 健康について

(1) 自分の健康感

【調査①・③】

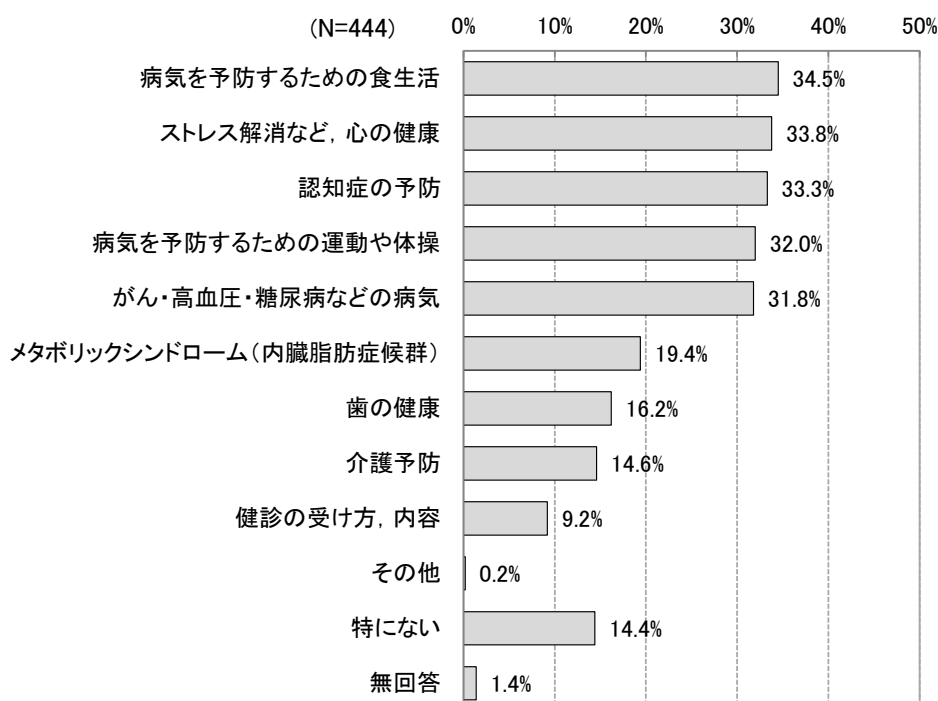
健康感については、「まあまあ健康」が高齢者、一般市民ともに最も高くなっている。「とても健康」と合わせて、自身は健康であると感じていると回答した方は、高齢者が 71.8%、一般市民が 83.8%となっており、約7割～8割を占める結果となっている。



(2) 健康について知りたいこと

【調査③】

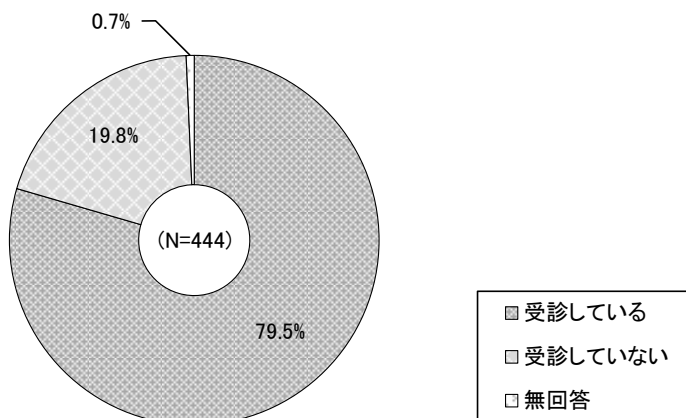
健康について知りたいことについては、「病気を予防するための食生活」が 34.5%と最も高くなっている。次いで「ストレス解消など、心の健康」(33.8%)、「認知症の予防」(33.3%)、「病気を予防するための運動や体操」(32.0%)、「がん・高血圧・糖尿病などの病気」(31.8%)となっており、病気予防への関心が高いことがわかる。



(3) 特定健康診査、職場健診、人間ドックなどの健康診査の受診（がん検診除く）

【調査③】

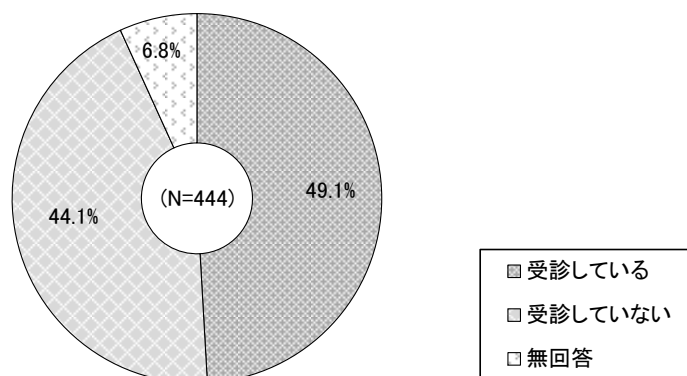
健康診査の受診状況については、「受診している」が79.5%と約8割を占めている一方、「受診していない」は19.8%と約2割を占める結果となっている。



(4) がん検診の受診

【調査③】

がん検診の受診状況については、「受診している」が49.1%と約5割を占める結果となっている。

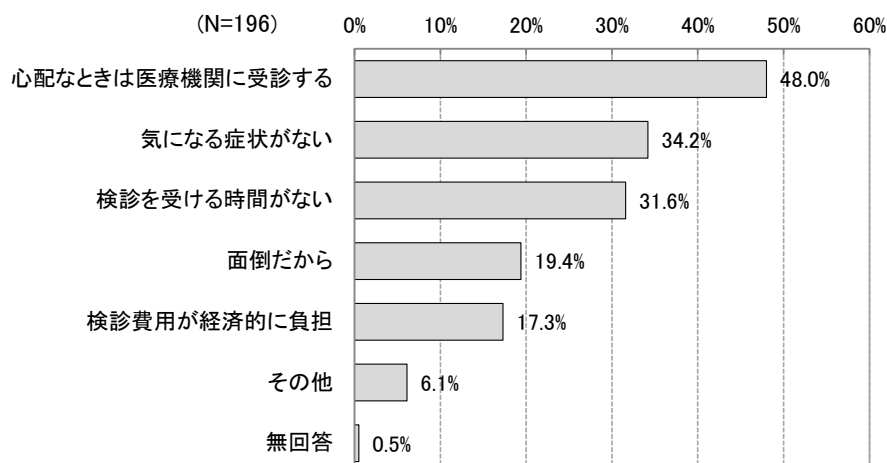


「受診していない」と回答した人のみ

(5) 受診していない理由

【調査③】

がん検診を受診していない理由については、「心配なときは医療機関を受診する」が48.0%と最も高くなっている。

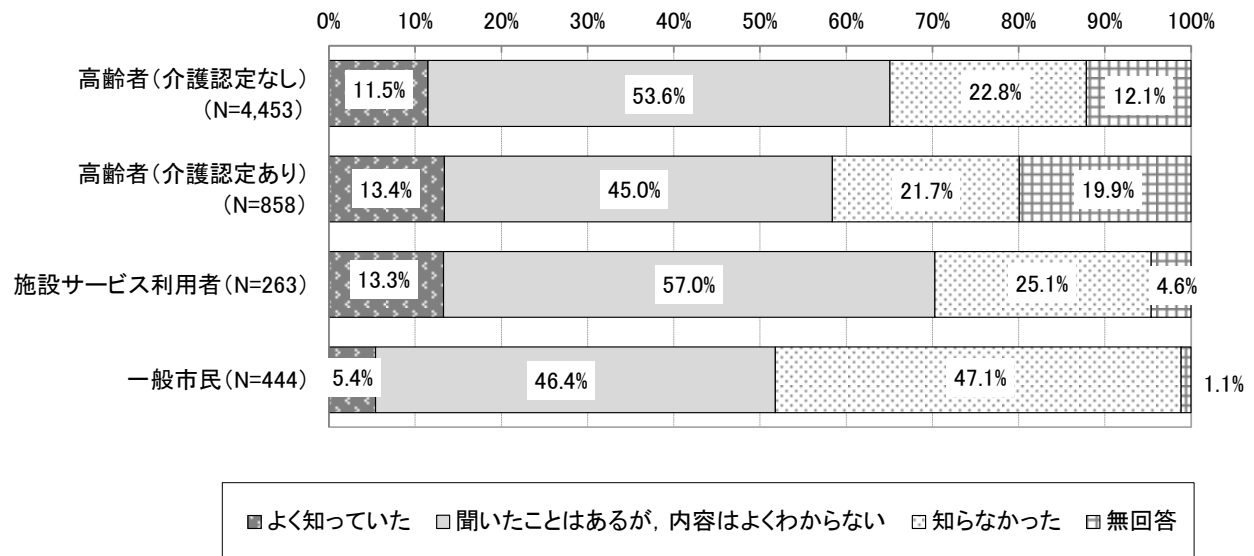


5 介護保険制度について

(1) 市が行う介護予防事業についての認知度

【調査①・②・③】

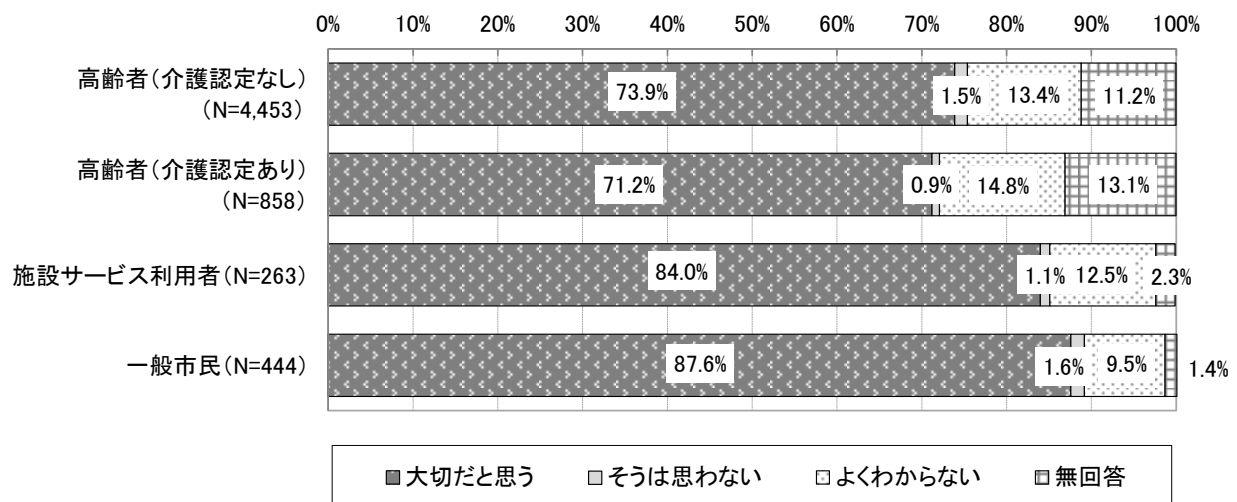
市が行う介護予防事業についての認知度は、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が最も割合が高く、「よく知っていた」は一般市民では1割未満、その他では1割台となっている。また、「知らなかった」は高齢者、施設サービス利用者では約2割～2割半ばとなっているが、一般では47.1%と半数近い人が「知らなかった」と回答している。



(2) 介護予防の取り組みを推進することについて

【調査①・②・③】

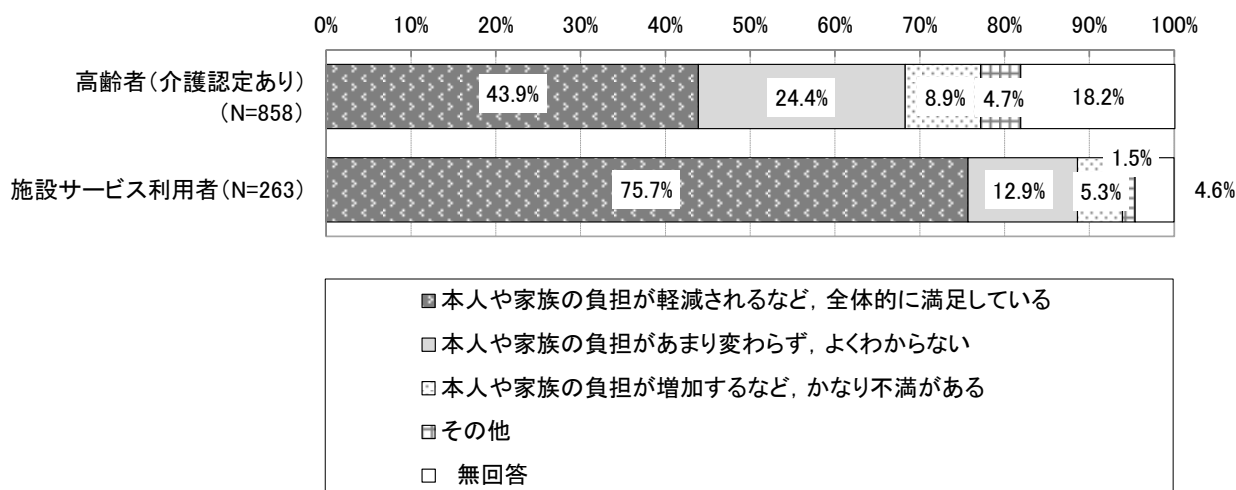
介護予防の取り組みの推進については、「大切だと思う」が7割から8割台と、高い割合となっている。



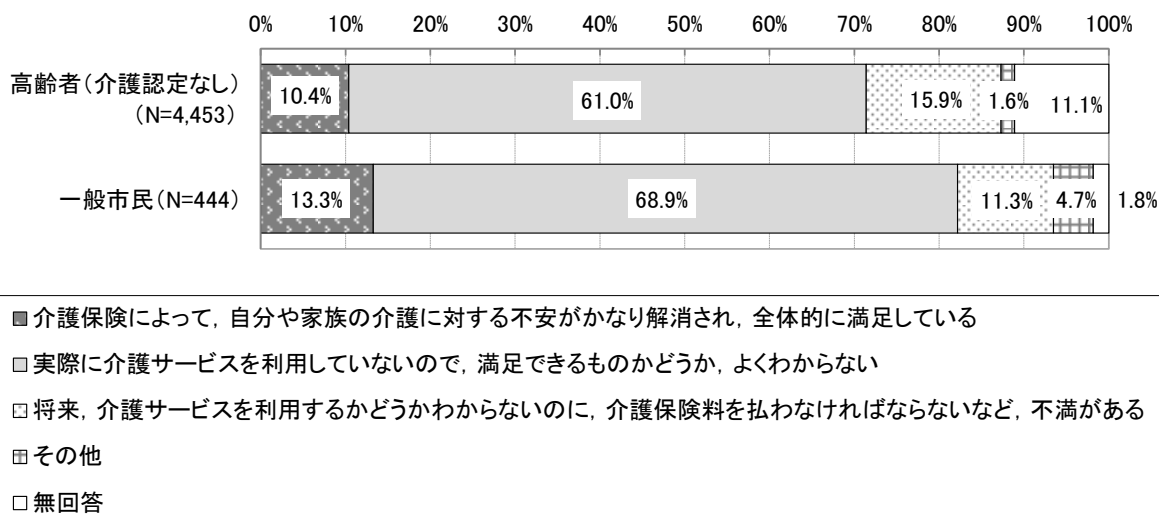
介護保険に対する評価については、高齢者（介護認定あり）・施設サービス利用者では、「本人や家族の負担が軽減されるなど、全体的に満足している」が最も高い割合となっており、施設サービス利用者では約7割半ばを占める結果となっている。

一方、高齢者（介護認定なし）・一般市民では、「実際に介護サービスを利用していないので、満足できるものかどうかよくわからない」が最も高くなっており、「介護保険によって、自分や家族に対する不安がかなり解消され、全体的に満足している」はわずかに約1割～1割半ば未満となっている。

<高齢者/介護認定あり・介護保険施設サービス利用者>



<高齢者/介護認定なし・一般市民>

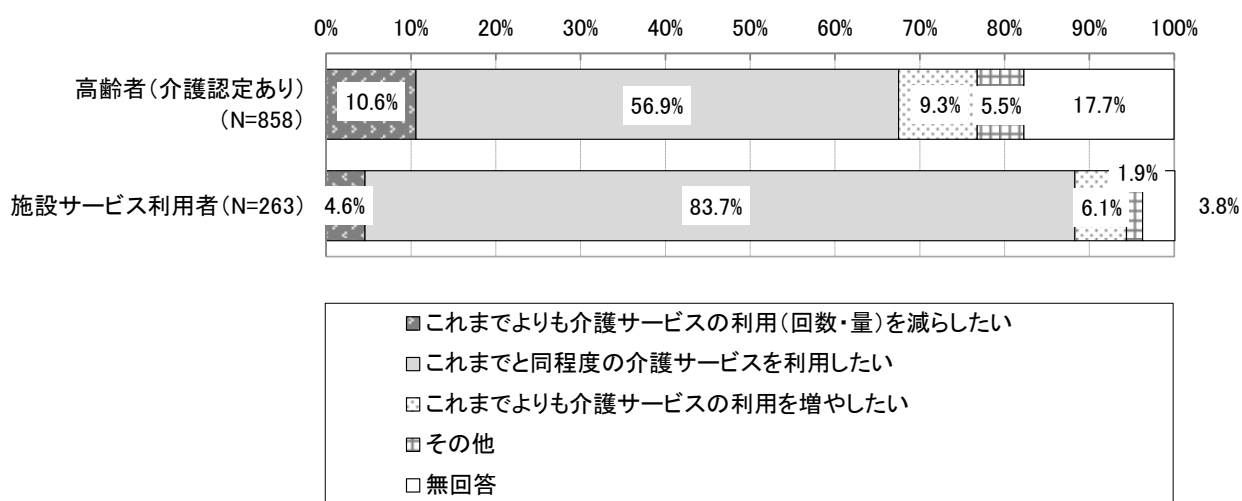


(4) 介護保険を利用する際の考え方

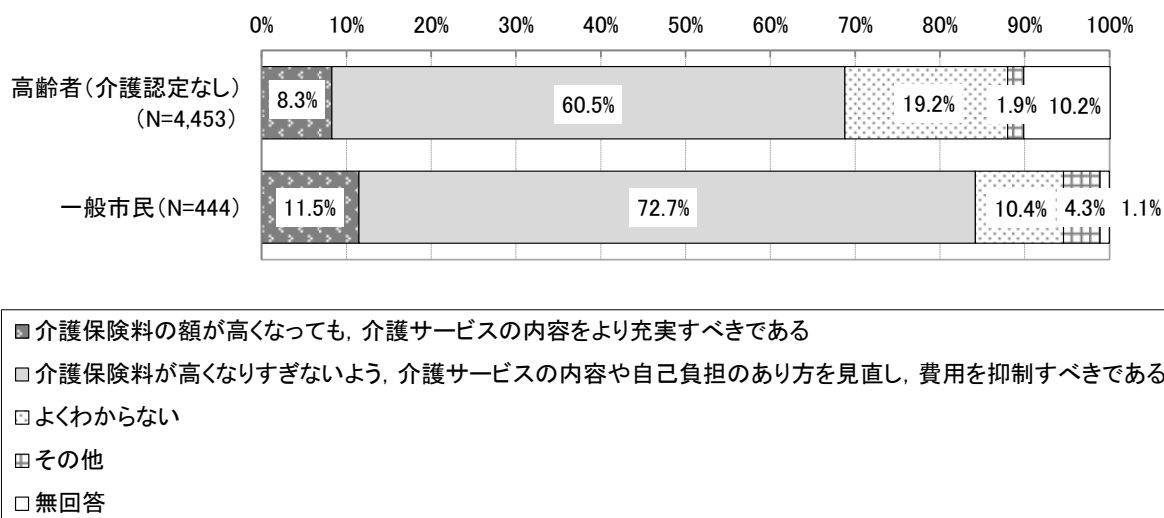
【調査①・②・③】

介護保険を利用する際の考え方については、高齢者(介護認定あり)・施設サービス利用者では、「これまでと同程度の介護サービスを利用したい」が最も高くなっており、特に施設サービス利用者では、83.7%と約8割を占める結果となっている。一方、高齢者(介護認定なし)・一般市民では、「介護保険料が高くなりすぎないように、介護サービスの内容や自己負担のあり方を見直し、費用を抑制すべきである」が最も高くなっている。

<高齢者/介護認定あり・介護保険施設サービス利用者>



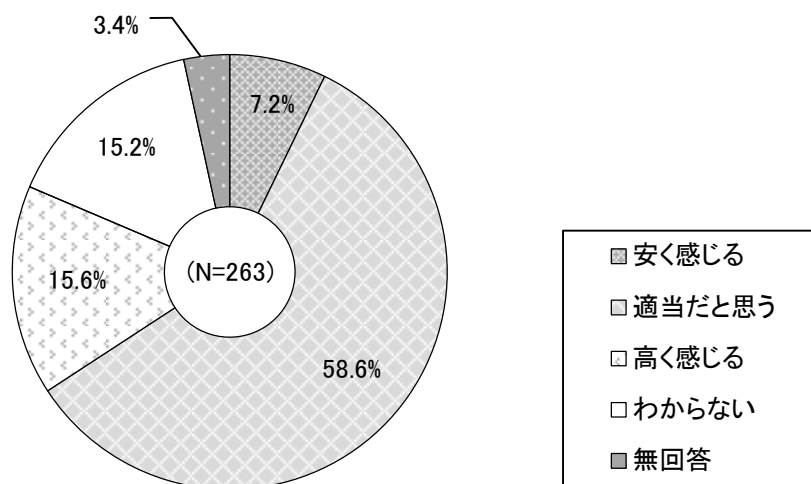
<高齢者/介護認定なし・一般市民>



(5) 現在の1か月の利用料（部屋代や食事代含む）について

【調査②】

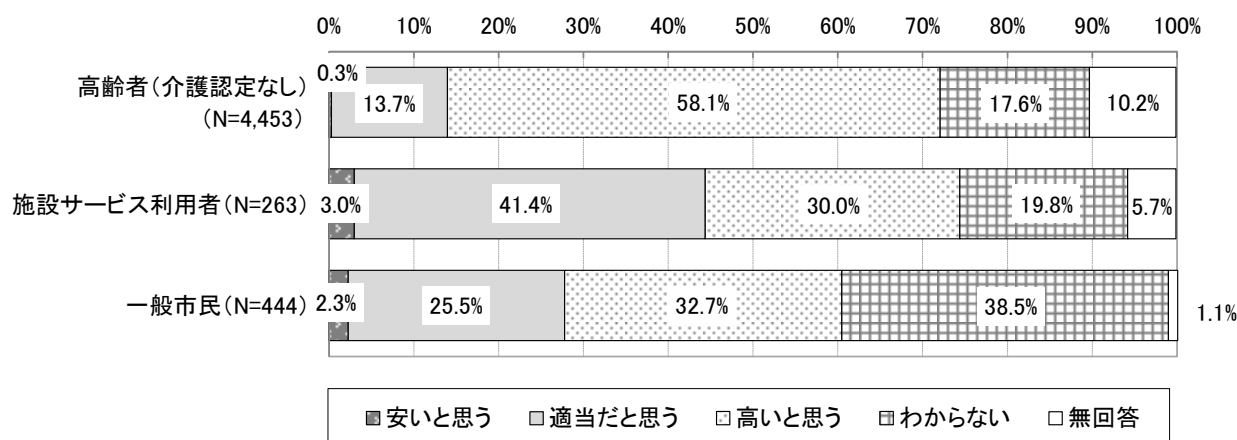
現在の1か月の利用料については、「適当だと思う」が58.6%と最も高くなっている。一方、「安く感じる」はわずか7.2%と1割未満となっている。



(6) 現在の介護保険料について

【調査①・②・③】

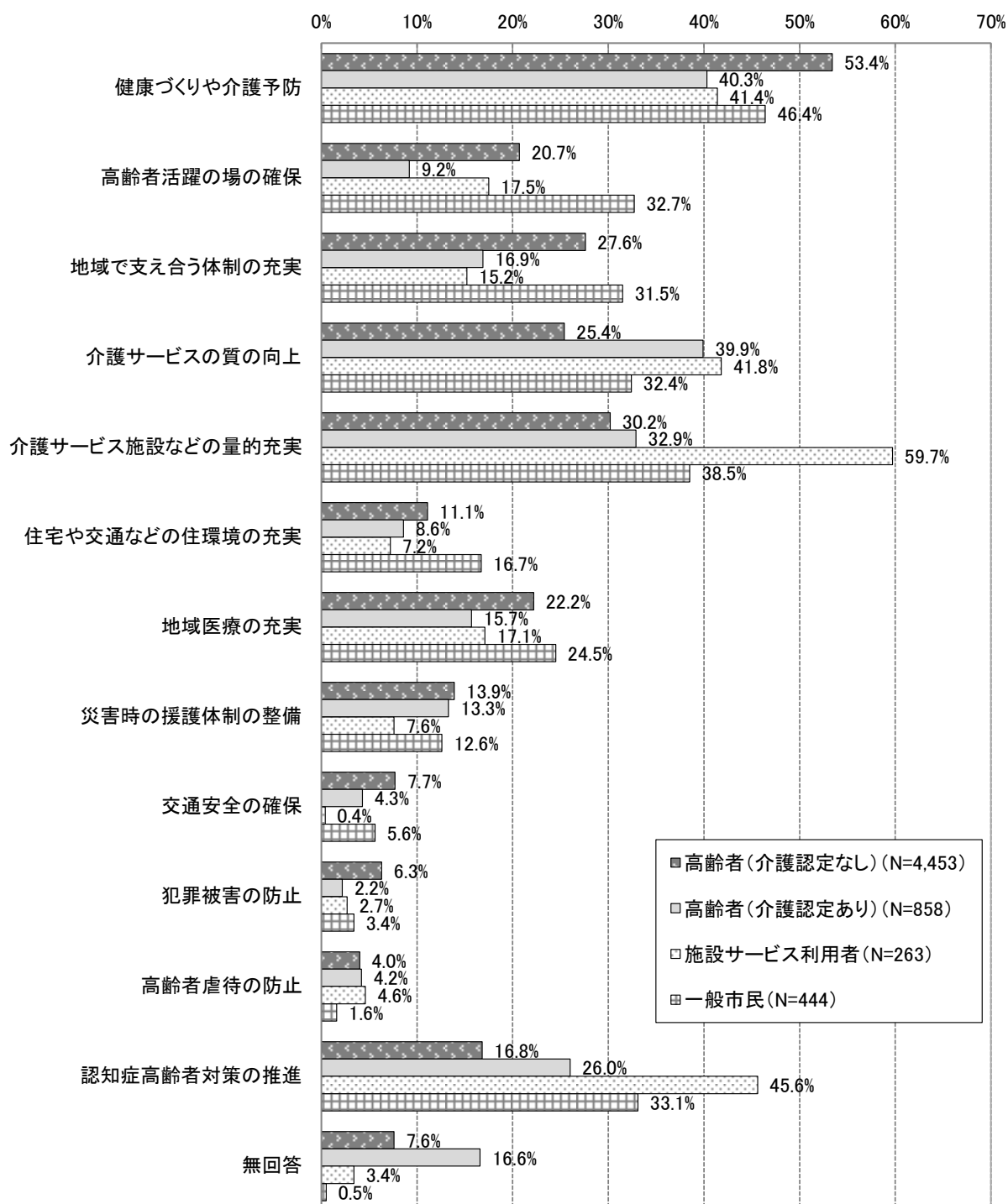
現在の介護保険料については、施設サービス利用者では「適当だと思う」が最も高く41.4%となっている。一方、高齢者（介護認定なし）では「高いと思う」が58.1%と最も高く、一般市民では「わからない」が38.5%と最も高くなっており、それぞれ介護保険料に対する考え方の違いが表れる結果となっている。



(7) 行政が力を入れるべき高齢者施策

【調査①・②・③】

行政が力を入れるべき高齢者施策については、施設サービス利用者では「介護サービス施設などの量的充実」が最も高くなっている。また、高齢者、一般市民では「健康づくりや介護予防」が最も高くなっている。次いで、高齢者（介護認定あり）では「介護サービスの質の向上」、高齢者（介護認定なし）、一般市民では「介護サービス施設などの量的充実」となっており、介護保険サービスの充実に対する施策の要望が高い結果となっている。

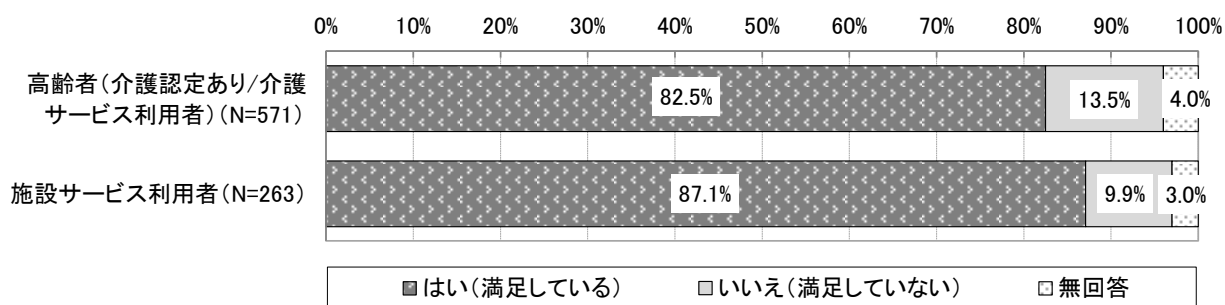


6 介護保険サービスについて

(1) 利用している介護サービス内容の満足度

【調査①・②】

利用している介護サービスへの満足度については、「はい（満足している）」が最も高く、高齢者（介護認定あり/介護サービス利用者）では82.5%、施設サービス利用者では87.1%と8割を超え、大半の人が介護サービスに満足しているという結果になっている。

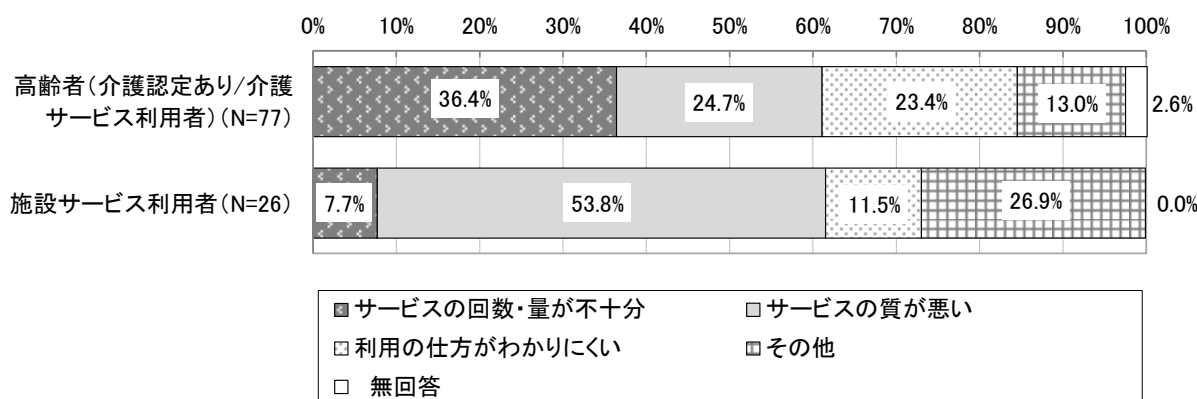


↓ 「いいえ（満足していない）」と回答した人のみ

(2) 満足していない主な理由

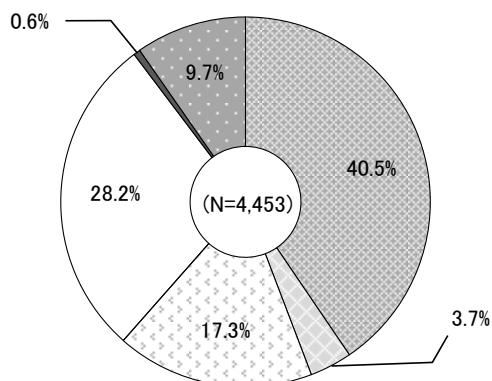
【調査①・②】

介護サービスの内容に満足していない理由については、高齢者（介護認定あり/介護サービス利用者）では、「サービスの回数・量が不十分」が36.4%と最も高くなっている。一方、施設サービス利用者では「サービスの質が悪い」が53.8%と最も高くなっており、半数以上の人々が、サービスの質に不満があるという結果となっている。



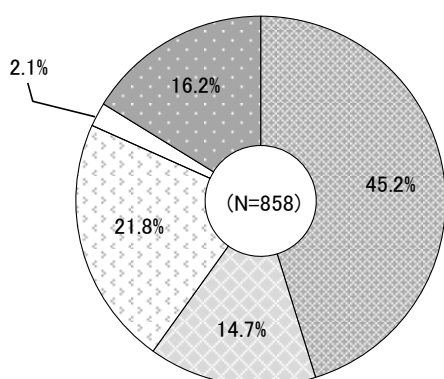
介護サービスの利用と住まいについては、高齢者では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」、「できる限り（施設を退所して）住み慣れた自宅や地域で介護サービスを利用したい（し続けたい）」が最も高くなっており、4割～4割半ばとなっている。一方、施設サービス利用者では「施設（特別養護老人ホーム等）に入所し続けたい」が80.7%と約8割を占めている。

【高齢者（介護認定なし）】



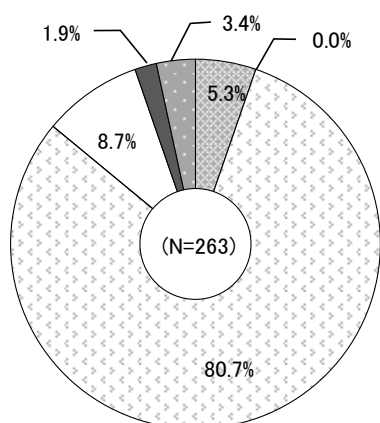
- 介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい
- ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい
- 介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい
- 今のところ、よくわからない
- その他
- 無回答

【高齢者（介護認定あり）】



- できる限り（施設を退所して）、住み慣れた自宅や地域で介護サービスを利用したい（し続けたい）
- 施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい（し続けたい）
- よくわからない
- その他
- 無回答

【施設サービス利用者】



- 施設を退所して、住み慣れた自宅や地域で介護サービスを利用したい
- ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい
- 施設（特別養護老人ホーム等）に入所し続けたい
- よくわからない
- その他
- 無回答

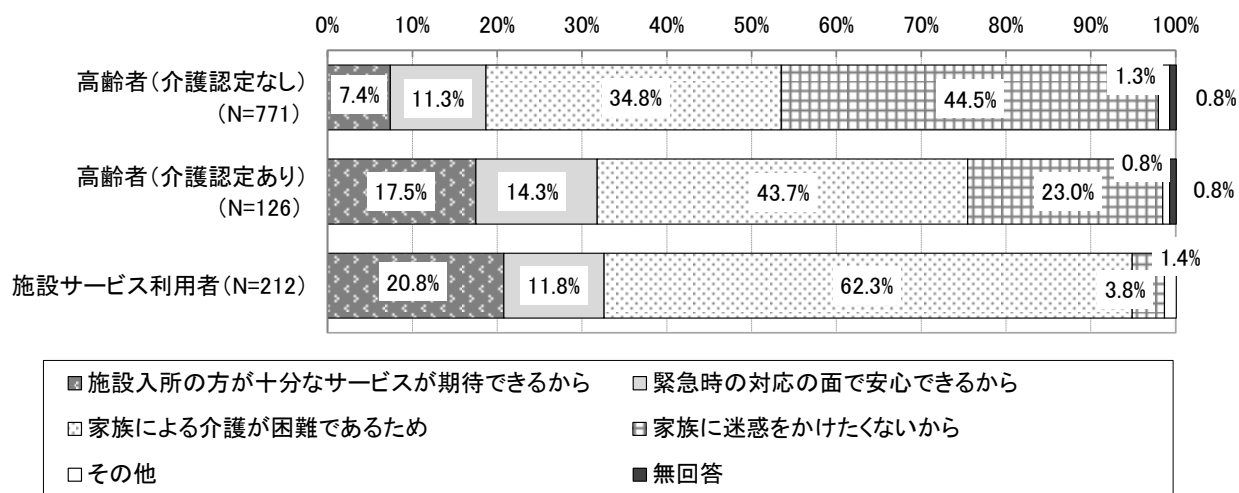


「施設に入所したい」と回答した人のみ

(4) 施設入所を希望する主な理由

【調査①・②】

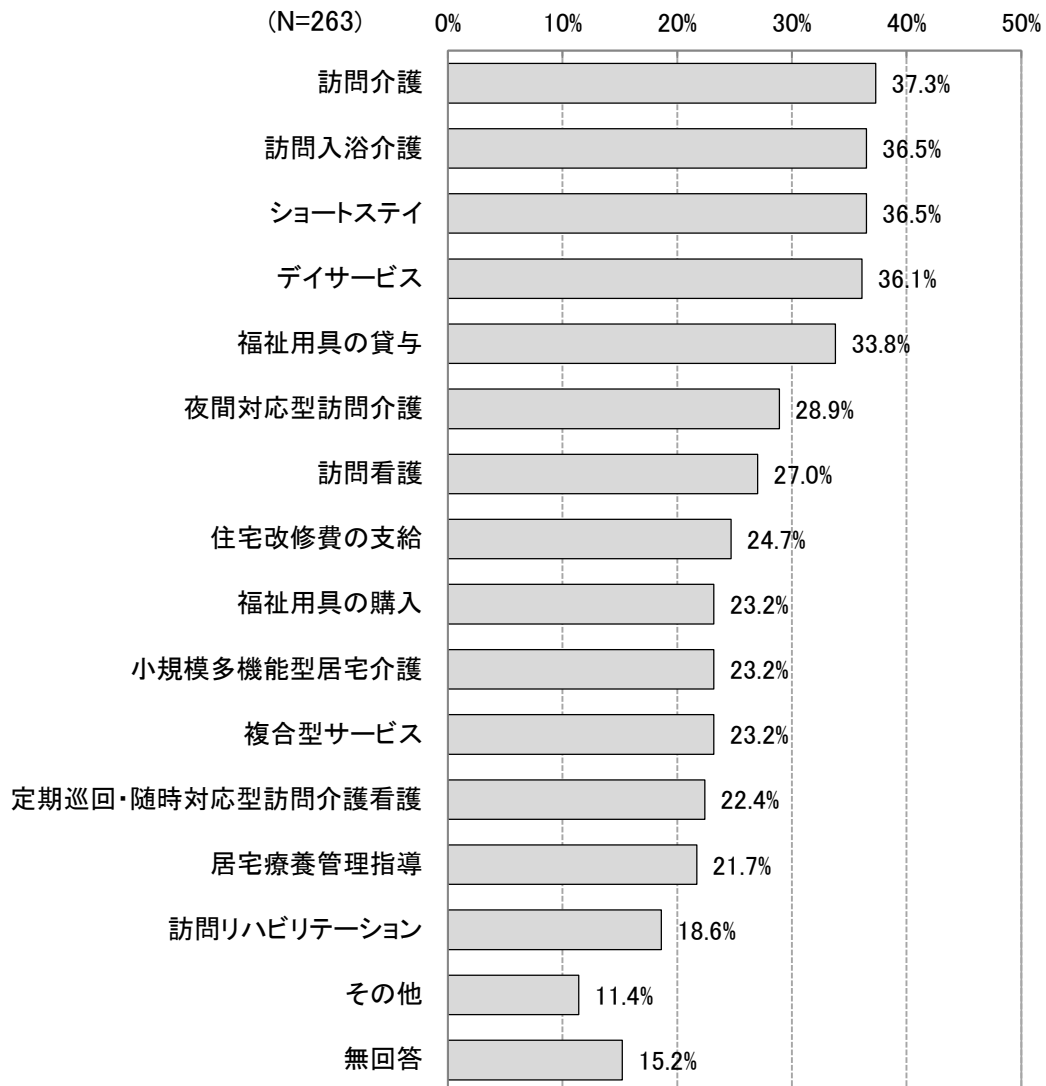
施設入所を希望する主な理由としては、高齢者（介護認定なし）では「家族に迷惑をかけたくないから」が44.5%と最も高くなっている。一方、高齢者（介護認定あり）、施設サービス利用者では「家族による介護が困難であるため」が最も高くなっており、高齢者（介護認定あり）では43.7%、施設サービス利用者では62.3%と約6割を占めている。



(5) 居宅で生活するために充実すべきだと思う居宅サービス

【調査②】

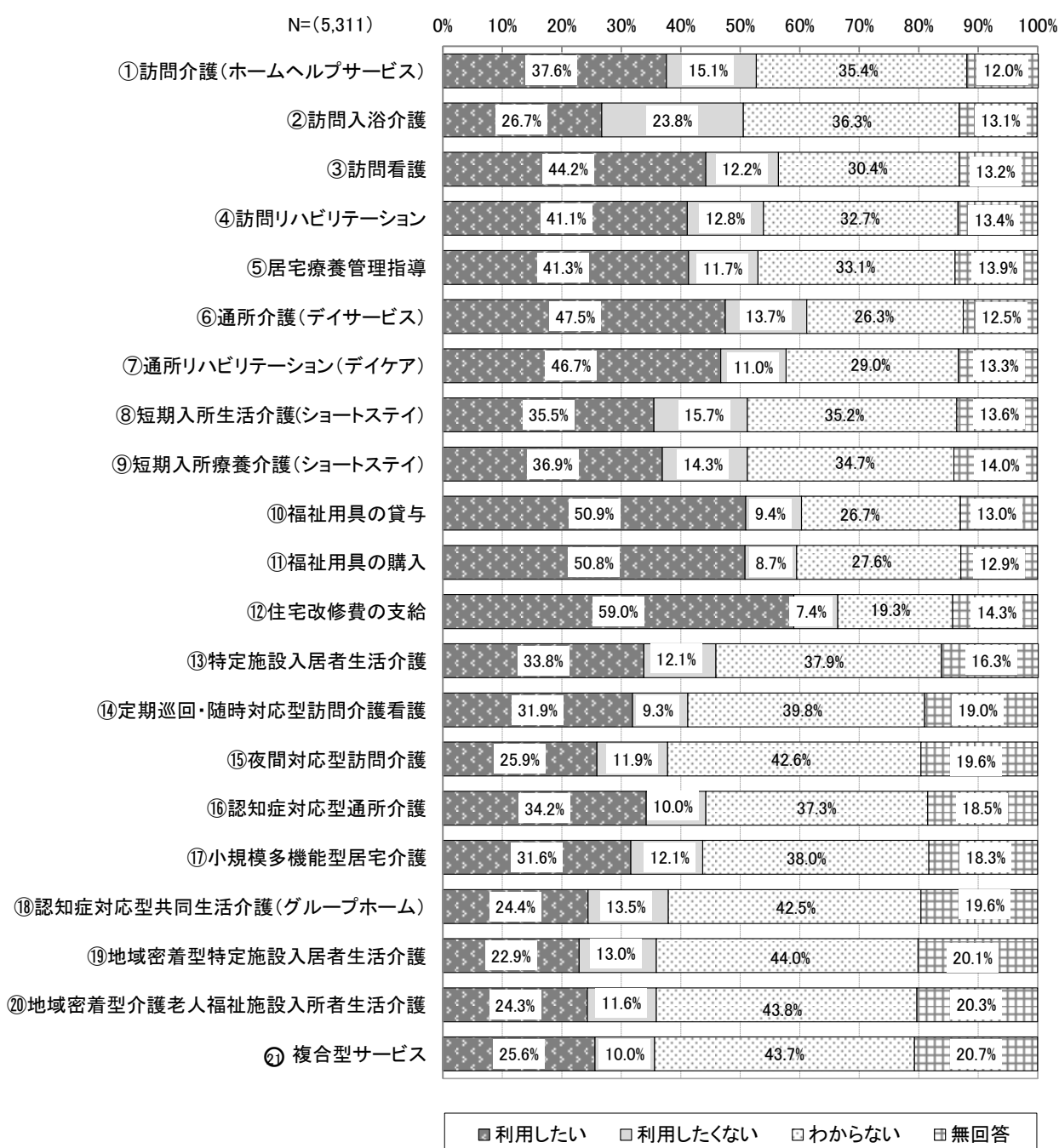
施設サービス利用者について、どのような居宅サービスが充実していれば、居宅で生活できると思うかについては、「訪問介護」が最も高く 37.3%、次いで「訪問入浴介護」、「ショートステイ」(36.5%)、「デイサービス」(36.1%)の順となっている。居宅生活を可能にするためには、訪問介護や、短期入所サービスの充実が必要とされていることがわかる。



(6) 介護保険在宅サービスの今後の利用意向

【調査①】

介護保険在宅サービスの今後の利用意向については、「利用したい」の割合が高いものは、⑩福祉用具の貸与、⑪福祉用具の購入、⑫住宅改修費の支給となっており、半数以上の人の利用意向があるという結果となっている。次いで、⑥通所介護（デイサービス）、⑦通所リハビリテーション（デイケア）が約4割半ばとなっている。一方、⑮夜間対応型訪問介護、⑯認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、⑲地域密着型特定施設入居者生活介護、⑳地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、㉑複合型サービスについては、「わからない」が4割以上となっており、事業内容等の周知等が必要であることがわかる。



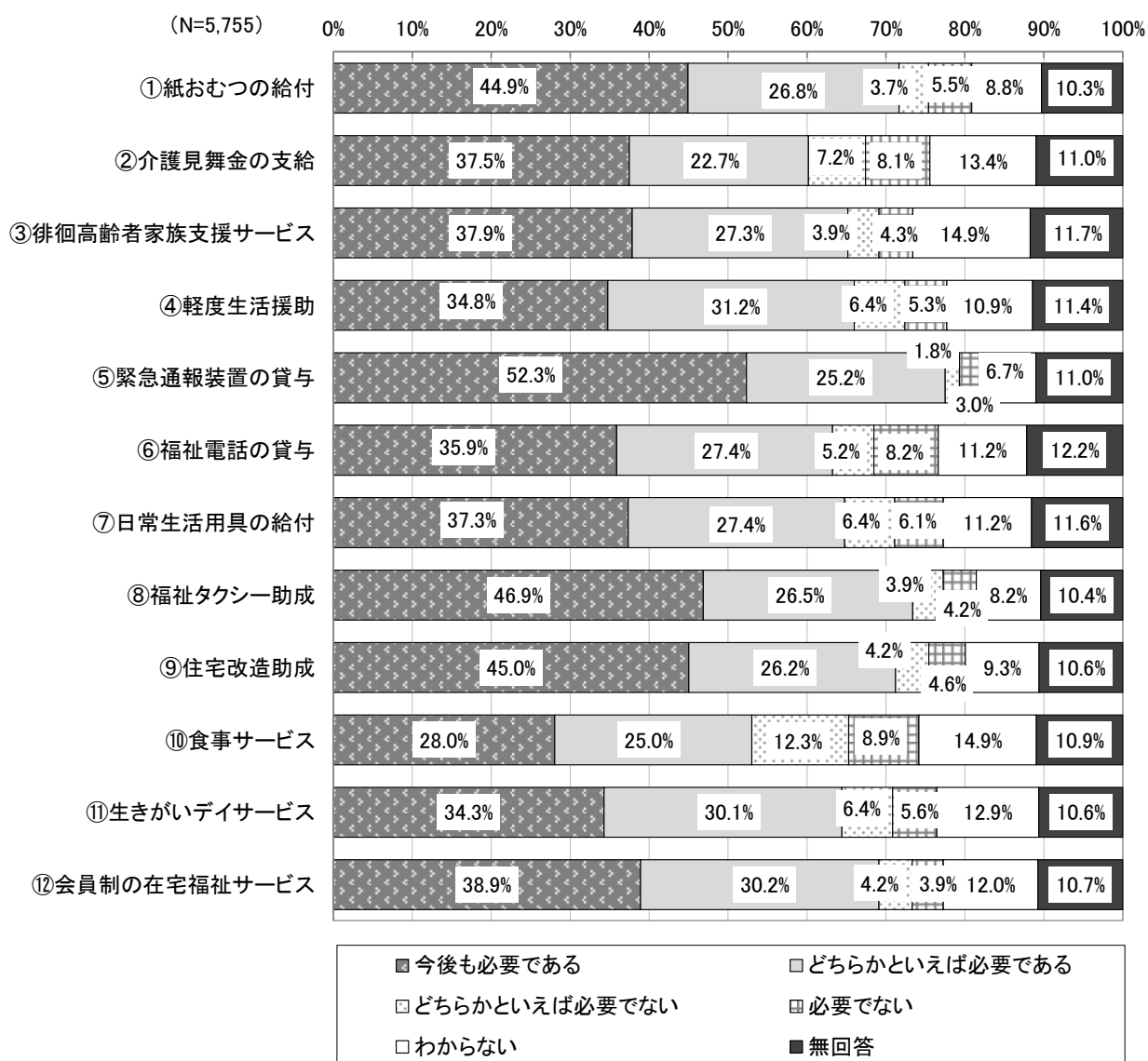
7 高齢者のための在宅福祉サービスについて

(1) 高齢者のための在宅福祉サービスの今後の必要性

【調査①・③】

在宅福祉サービスの今後の事業の必要性については、全てのサービスについて『必要である』（「今後も必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた割合）と回答した人が半数以上を占めており、特に①紙おむつの給付、⑤緊急通報装置の貸与、⑧福祉タクシー助成、⑨住宅改造助成では7割以上を占める結果となっている。

一方、『必要でない』（「どちらかといえば必要でない」と「必要でない」を合わせた割合）では、②介護見舞金の支給、⑥福祉電話の貸与、⑩食事サービスが約1割半ば～2割となっており、他の項目よりも高い割合となっている。

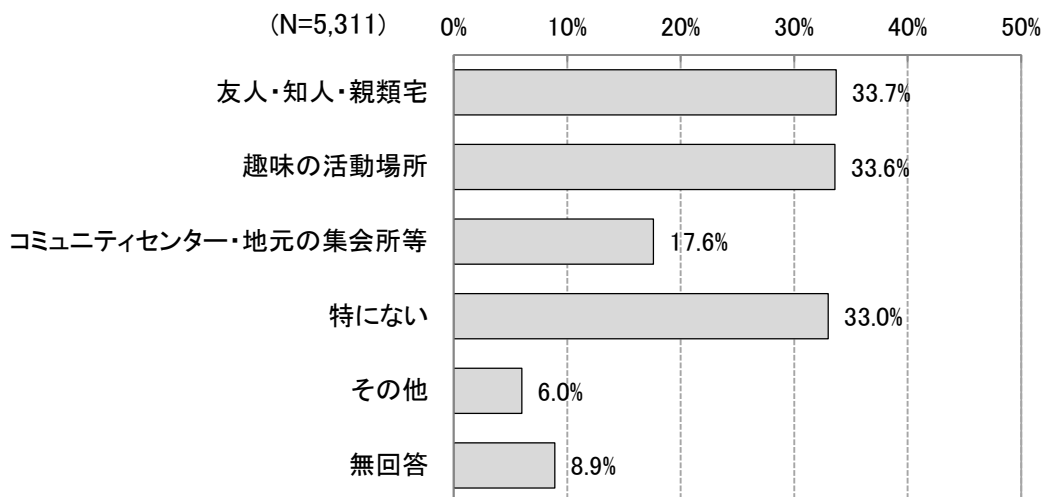


8 高齢者の居場所について

(1) 自宅以外で日中気軽に過ごせる場所について

【調査①】

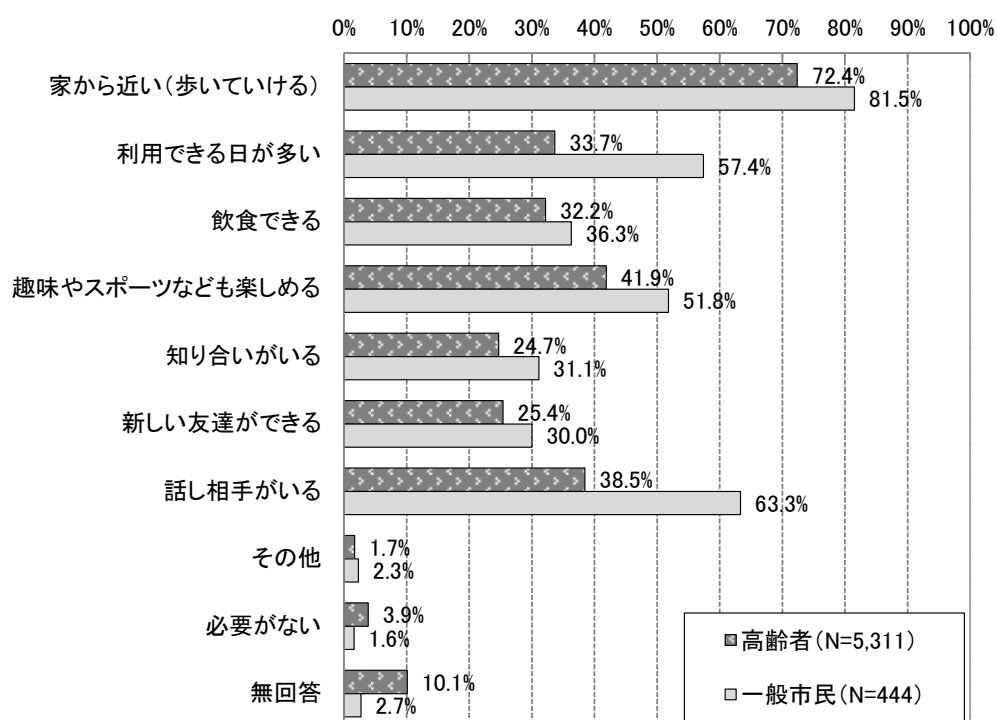
自宅以外で日中気軽に過ごせる場所については、「友人・知人・親類宅」(33.7%)が最も高くなっており、次いで「趣味の活動場所」(33.6%)となっている。一方、「特にない」も33.0%となっている。



(2) 高齢者の居場所に求める機能

【調査①・③】

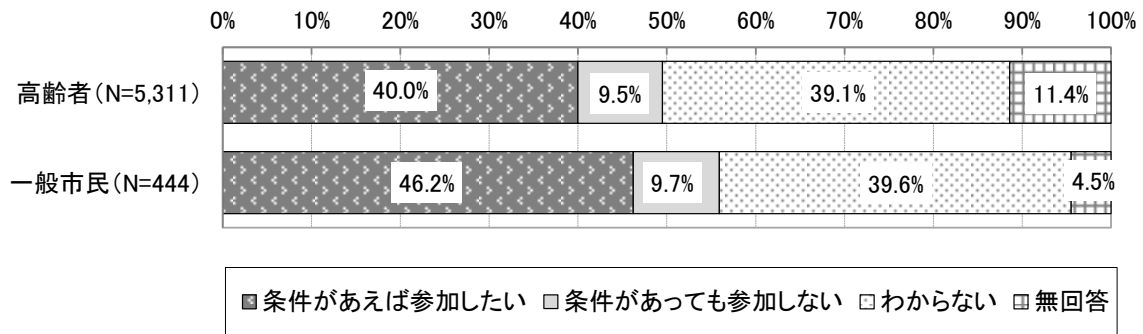
高齢者が地域で元気に暮らせるようにするために、介護予防や健康づくりなどができる居場所について期待する機能としては、「家から近い(歩いていける)」が最も高くなっている。次いで、高齢者では「趣味やスポーツなども楽しめる」、一般市民では「話し相手がいる」が続いている。



(3) 高齢者の居場所運営に関するボランティア活動について

【調査①・③】

高齢者の居場所の運営に関する地域の方（ボランティア）の協力については、高齢者、一般市民ともに「条件があれば参加したい」が4割～4割半ばを占める結果となっている。「条件があっても参加しない」はどちらも1割未満となっている。

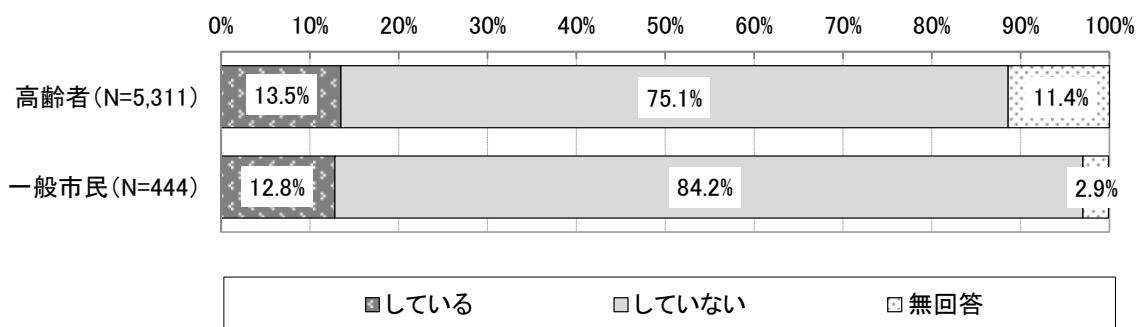


9 被介護者の状況について

(1) 家族の介護の有無

【調査①・③】

家族の介護をしているかについては、「していない」が7割半ば～8割半ばと大半を占めている。

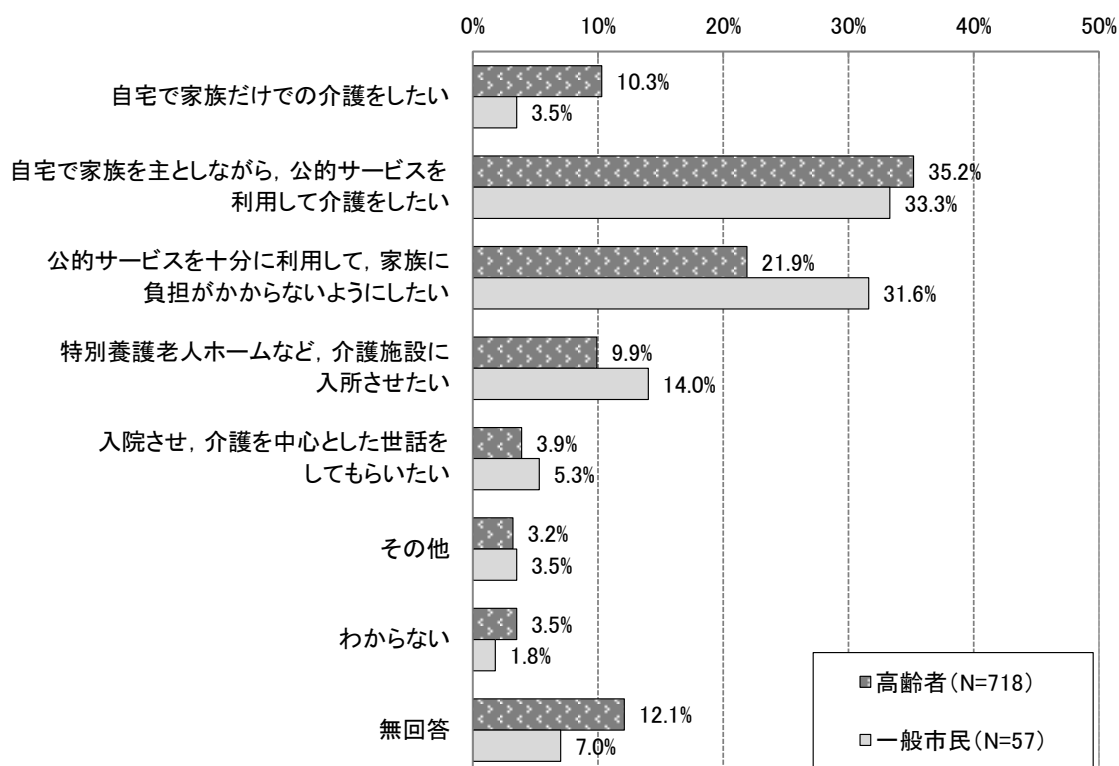


↓ 「している」と回答した人のみ

(2) 今後の介護方法

【調査①・③】

家族の介護をしていると回答した人が、今後はどのような介護方法を考えているかについては、「自宅で家族を主としながら、公的サービスを利用して介護をしたい」が最も高くなっている。次いで、「公的サービスを十分に利用して、家族に負担がかからないようにしたい」となっており、家族で介護をしながらも、公的サービスを利用した介護方法を考えている人が多いという結果となっている。

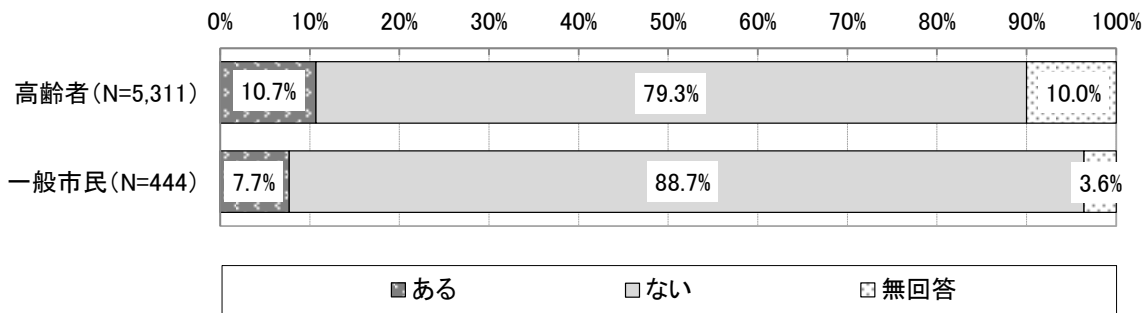


10 高齢者を地域で支えるネットワークづくりについて

(1) 声かけや訪問といった高齢者を見守る活動の有無

【調査①・③】

見守り活動の有無については、「ない」が高齢者では8割近く、一般市民では9割近くと大半を占めている。



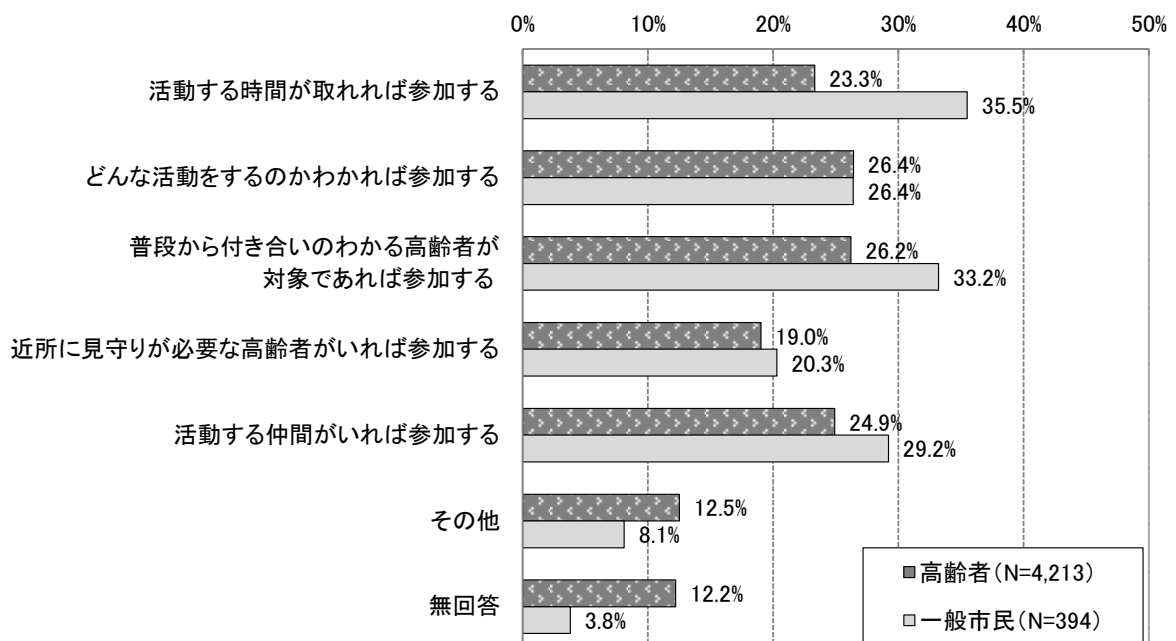
↓ 「ない」と回答した人のみ

(2) 見守り活動への参加条件

【調査①・③】

見守り活動へ参加していない人が、今後、参加するための条件については、一般市民では「活動する時間が取れば参加する」が35.5%と最も高く、時間が無くて参加できていない人が多いことがわかる。

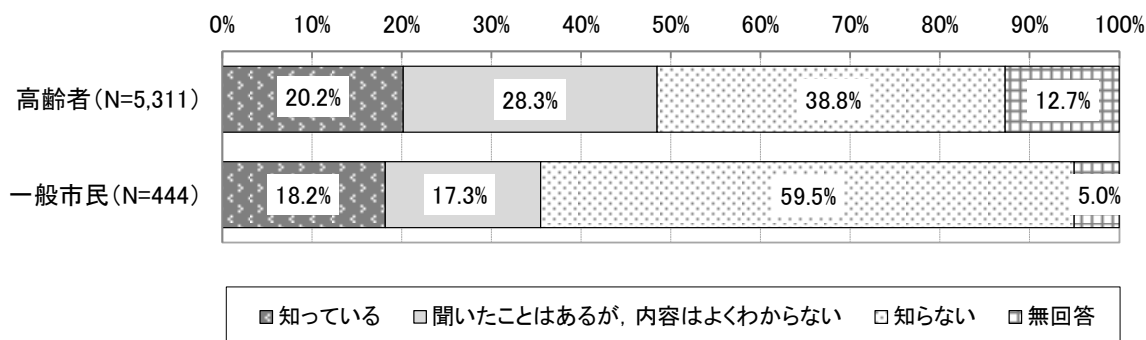
一方、高齢者では「どんな活動をするのかわかれば参加する」、「普段から付き合いのわかる高齢者が対象であれば参加する」、「活動する仲間がいれば参加する」の割合が高くなっており、活動内容の周知や、共に活動する仲間の存在等条件が整えば参加意向があることがうかがえる。



(3) 「地域包括支援センター」の認知

【調査①・③】

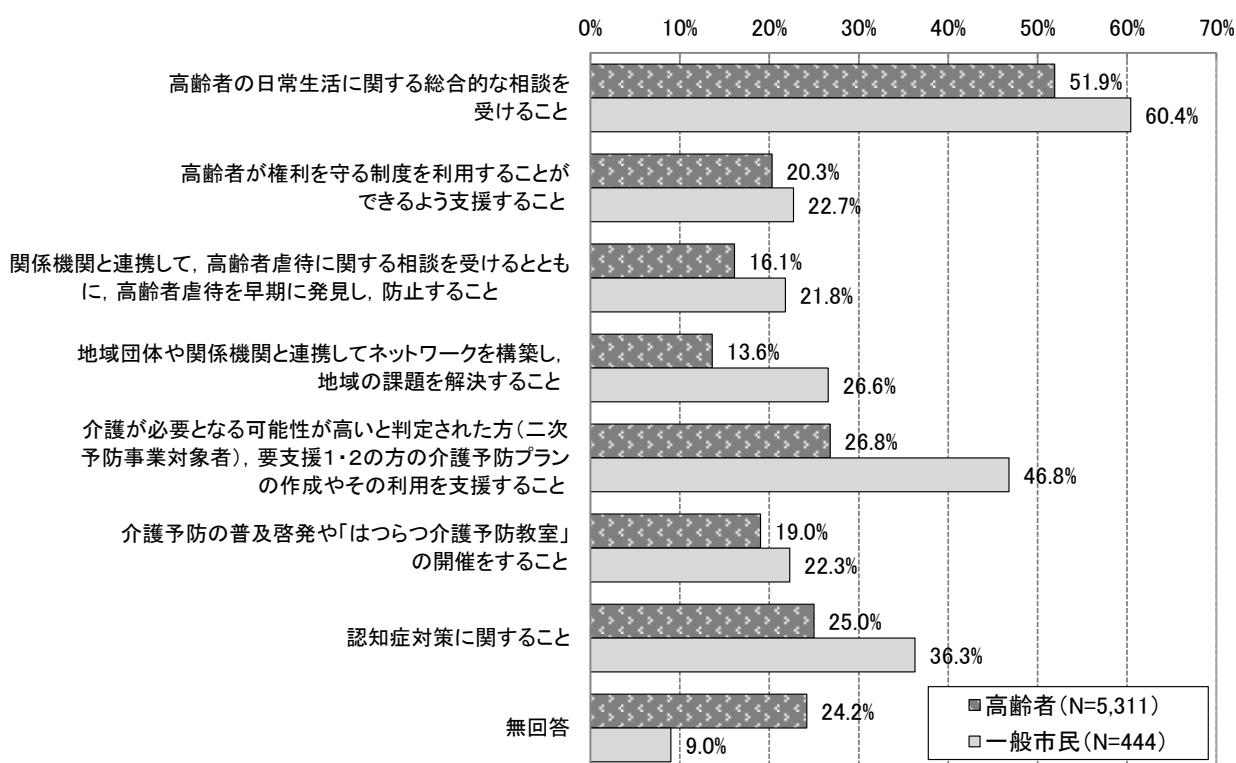
地域包括支援センターの認知については、ともに「知らない」が最も高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」と合わせると、高齢者では67.1%、一般市民では76.8%となり、「知っている」を大きく上回る結果となっている。



(4) 「地域包括支援センター」の業務で、今後特に充実すべきこと

【調査①・③】

地域包括支援センターで今後充実すべきだと思う業務内容については、「高齢者の日常生活に関する総合的な相談を受けること」が高齢者、一般市民ともに最も高くなっている。次いで、「介護が必要となる可能性が高いと判定された方（二次予防事業対象者）、要支援1・2の方の介護予防プランの作成やその利用を支援すること」となっており、相談業務の充実が望まれていることがわかる。

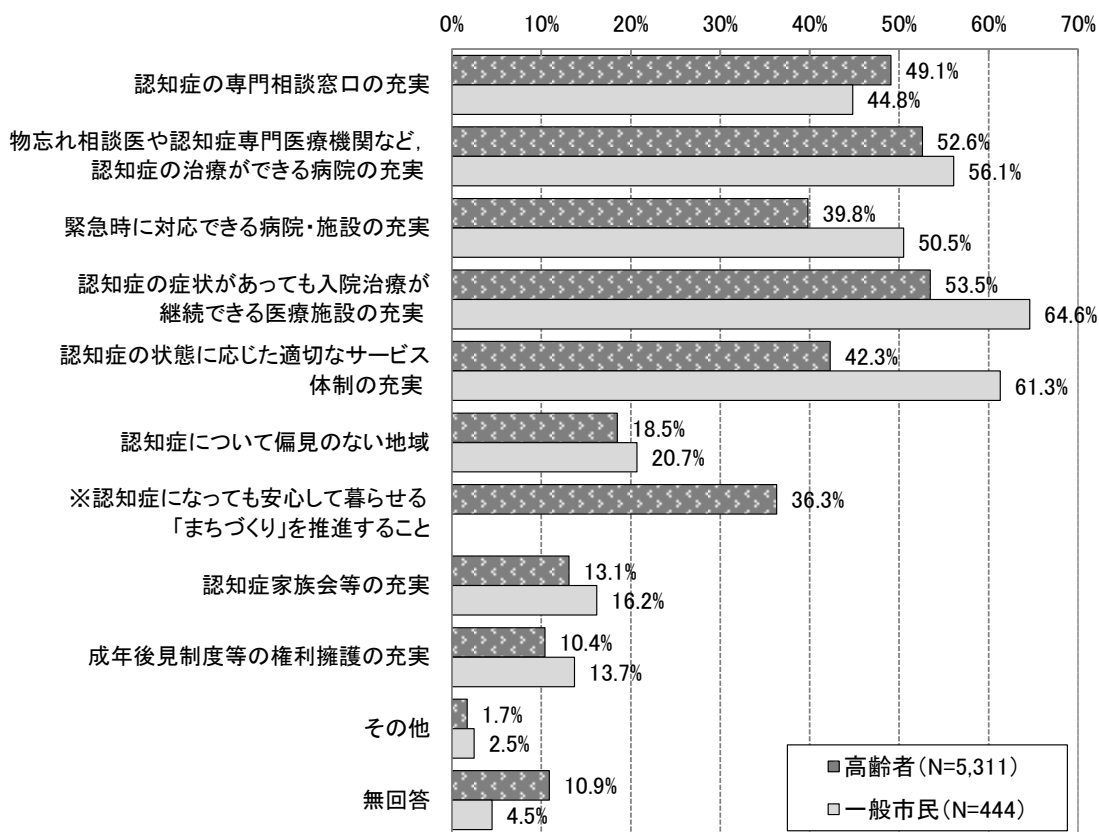


11 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて

(1) 認知症になっても安心して暮らしていくための条件

【調査①・③】

認知症になっても安心して暮らしていくための条件については、高齢者、一般市民ともに「認知症の症状があっても入院治療が継続できる医療施設の充実」が最も高くなっている。次いで高齢者では「物忘れ相談医や認知症専門医療機関など、認知症の治療ができる病院の充実」、「認知症の専門相談窓口の充実」など医療の充実を望む人が多いことがわかる。一般市民では、「認知症の状態に応じた適切なサービス体制の充実」と続いており介護サービスの充実が望まれていることがわかる。

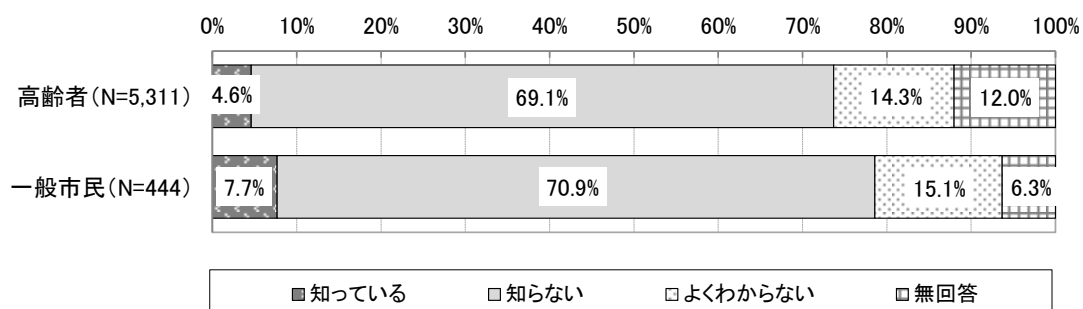


※「一般市民」の質問には含まれていない選択肢

(2) 「認知症サポーター」の認知

【調査①・③】

認知症サポーターの認知については、「知らない」がともに約7割となっており、「よくわからない」と合わせると、8割以上の人知らないという結果となっている。

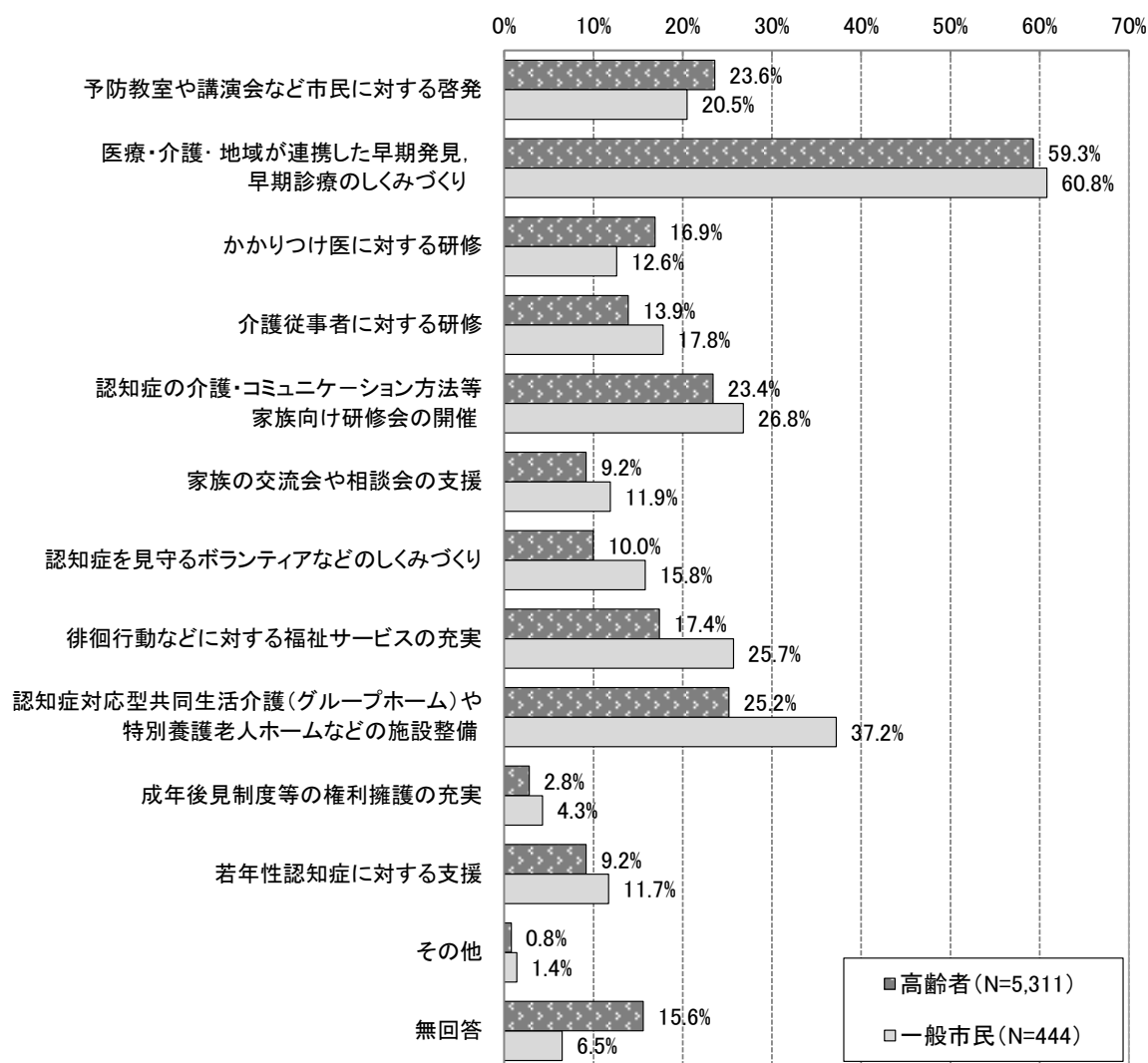


(3) 今後、重点を置くべきだと思う認知症対策

【調査①・③】

重点を置くべき認知症対策については、「医療・介護・地域が連携した早期発見、早期診療のしくみづくり」が他の項目と比較して突出した高い割合となっており、要望が高いことが分かる。

次いで「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）や特別養護老人ホームなどの施設整備」、となっており、続いて高齢者では「予防教室や講演会など市民に対する啓発」、一般市民では「認知症の介護・コミュニケーション方法等家族向け研修会の開催」となっている。施設整備や介護者への研修などを望む人が多くなっている。

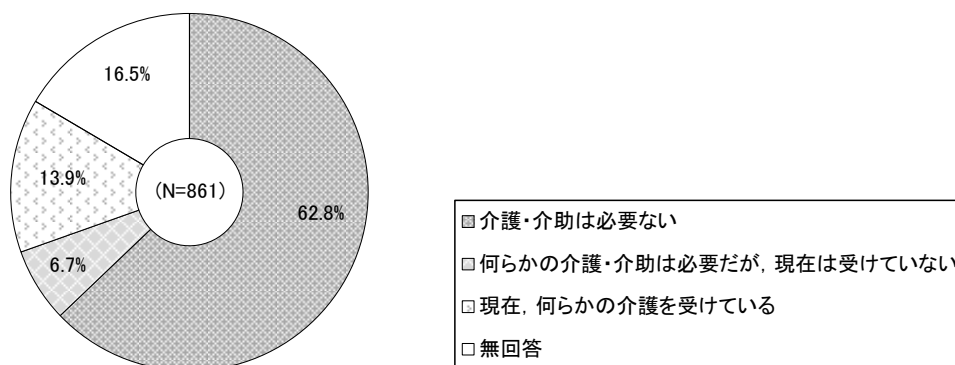


12 一人暮らし高齢者の状況について

(1) 普段の生活の中における、介護・介助の必要

【調査①】

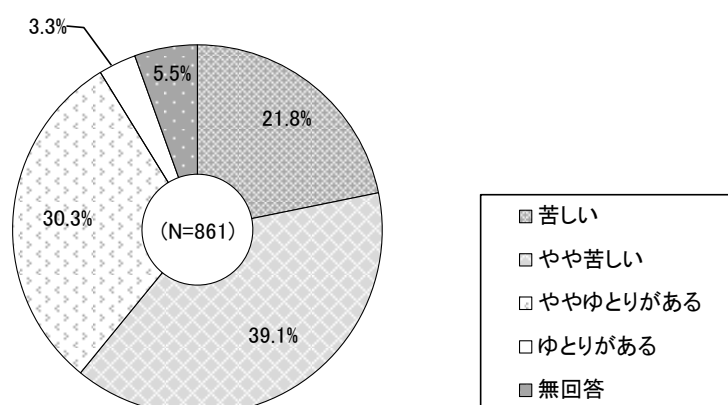
一人暮らし高齢者の普段の生活の中での介護・介助については、「介護・介助は必要ない」が62.8%と最も高くなっている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている」を合わせると、介護・介助の必要のある人が20.6%と約2割を占める結果となっている。



(2) 経済的にみた現在の暮らしの状況

【調査①】

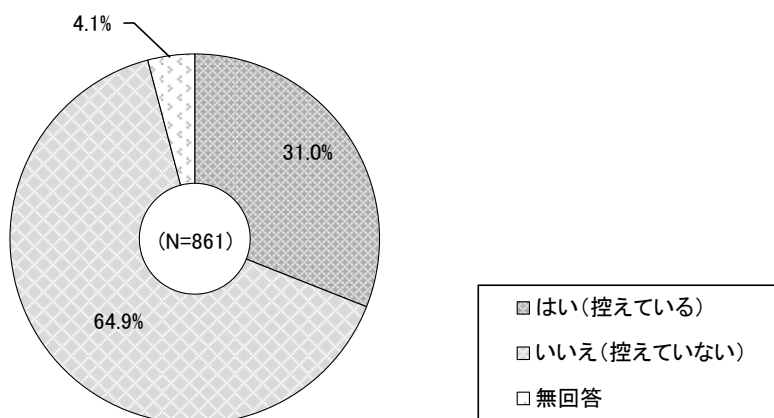
一人暮らし高齢者の経済的にみた暮らしの状況については、「やや苦しい」が39.1%と最も高くなっており、「苦しい」を合わせると、60.9%と約6割を占める結果となっている。



(3) 外出の状況

【調査①】

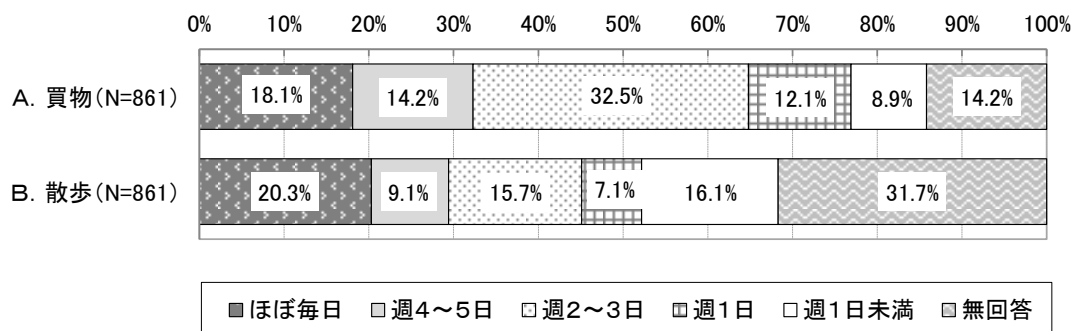
一人暮らし高齢者の外出については、「いいえ(控えていない)」が64.9%と約6割半ばを占めている。



(4) 外出の頻度

【調査①】

一人暮らし高齢者の外出の頻度については、買物については「週2～3日」が最も高く、次いで「ほぼ毎日」となっている。一方、散歩については、「ほぼ毎日」が最も高くなっており、次いで「週1日未満」となっている。

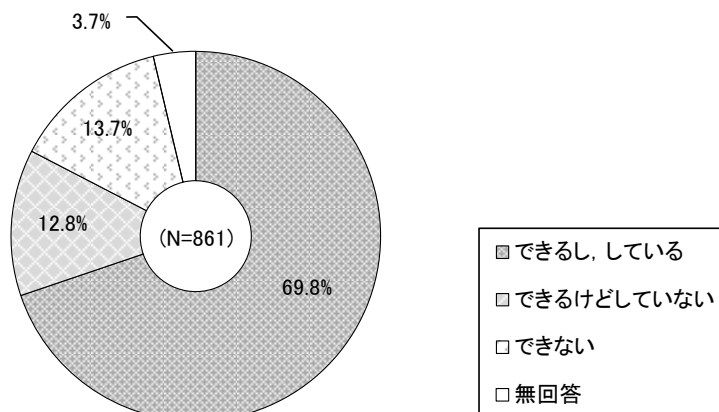


(5) 日常生活について

【調査①】

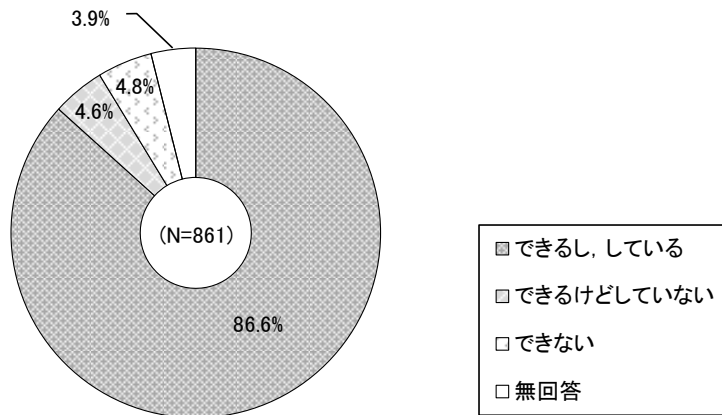
① バスや電車での一人での外出

一人暮らし高齢者のバスや電車での外出については、「できるし、している」が69.8%と最も高くなっている。一方、「できるけどしていない」と「できない」を合わせると、26.5%と約2割半ばを占める結果となっている。



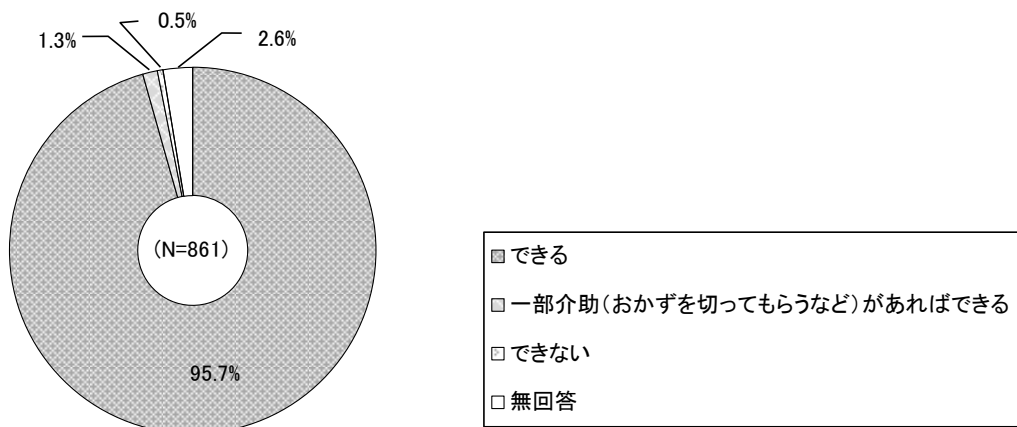
② 食事の用意

一人暮らし高齢者の食事の用意については、「できるし、している」が86.6%と最も高く、約8割半ばを占めている。



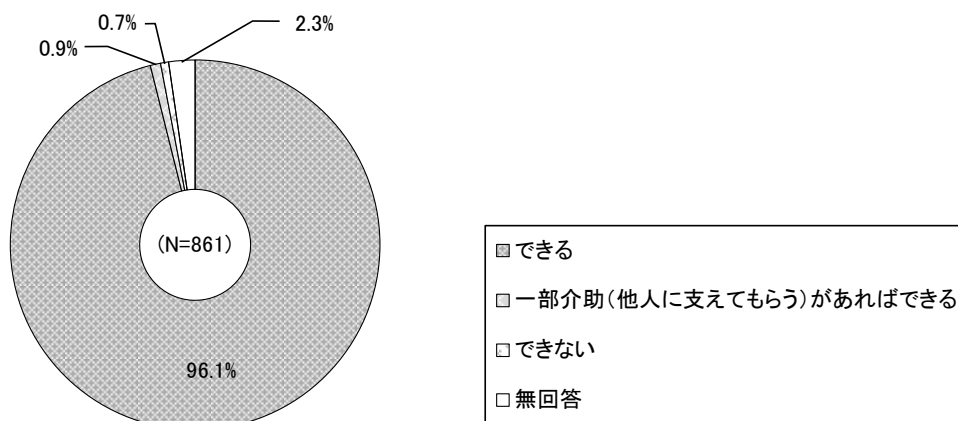
③ 食事

一人暮らし高齢者の食事については、「できる」が95.7%と最も高く、ほとんどの人が一人で食事ができるという結果となっている。



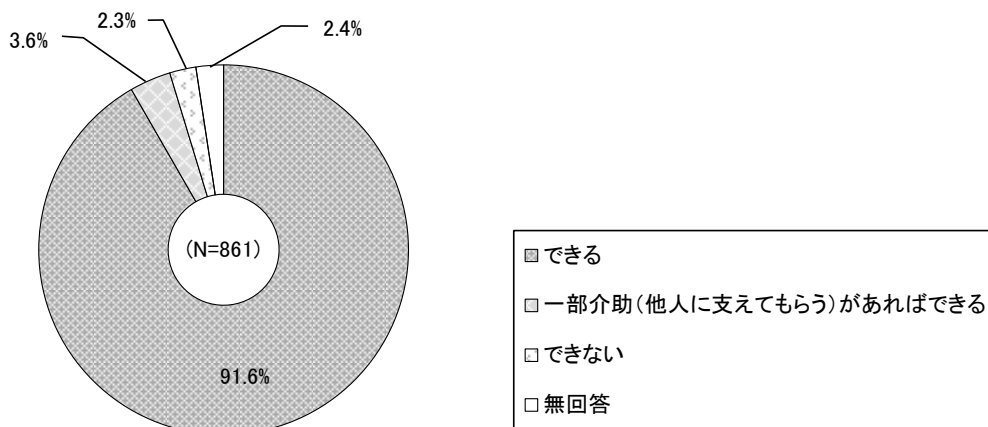
④ トイレ

一人暮らし高齢者のトイレについては、「できる」が96.1%と大半の人が「できる」と回答している。



⑤ 入浴

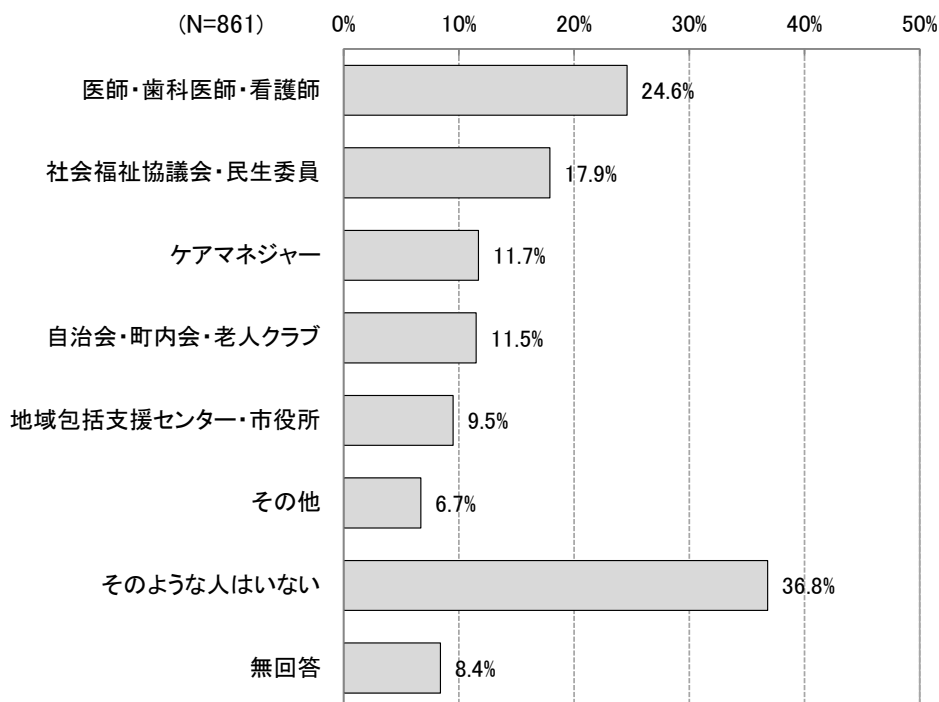
一人暮らし高齢者の入浴については、「できる」が 91.6%と最も高く、大半の人が「できる」と回答している。



(6) 何かあったときに、家族や友人・知人以外で相談する相手

【調査①】

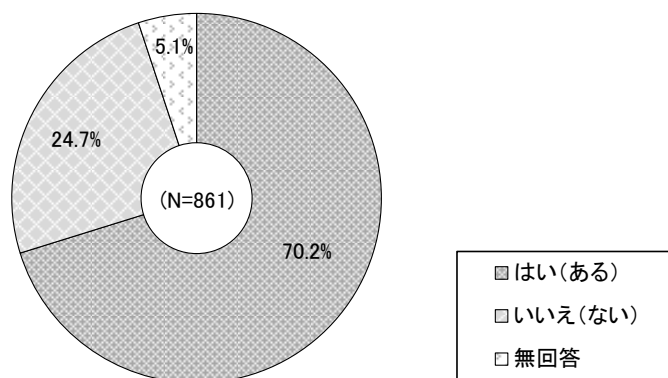
一人暮らし高齢者が何かあったときに家族や友人・知人以外で相談する相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が 24.6%と最も高くなっている。次いで、「社会福祉協議会・民生委員」(17.9%)、ケアマネジャー(11.7%)となっている。一方、「そのような人はいない」が 36.8%と約3割半ばを占めている。



(7) 生きがいの有無

【調査①】

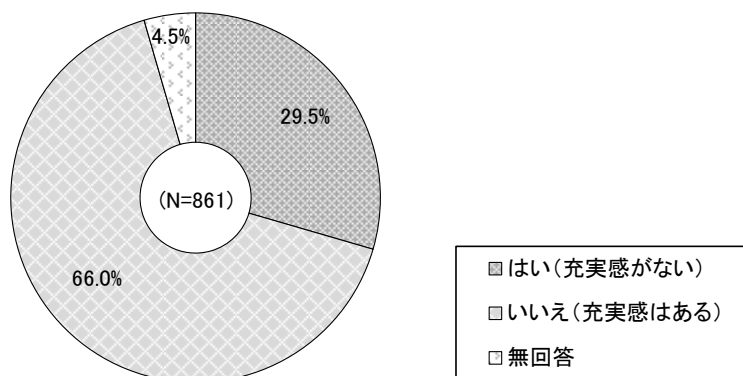
一人暮らし高齢者の生きがいについては、「はい(ある)」が70.2%と約7割を占めている。「いいえ(ない)」は24.7%となっており、約2割半ばの人が生きがいを持っていないという結果となっている。



(8) 毎日の生活への充実感

【調査①】

一人暮らし高齢者の毎日の生活への充実感については、「いいえ(充実感はある)」が66.0%となっており、「はい(充実感がない)」(29.5%)を上回る結果となっている。



參考資料

判定結果

1 基本チェックリスト

● 判定方法

- ・ 判定は、「介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル」による。
- ・ 本調査における該当する設問は以下の通り。
- ・ 基本得点は、該当する選択肢を回答した場合は1点としたときの合計点。

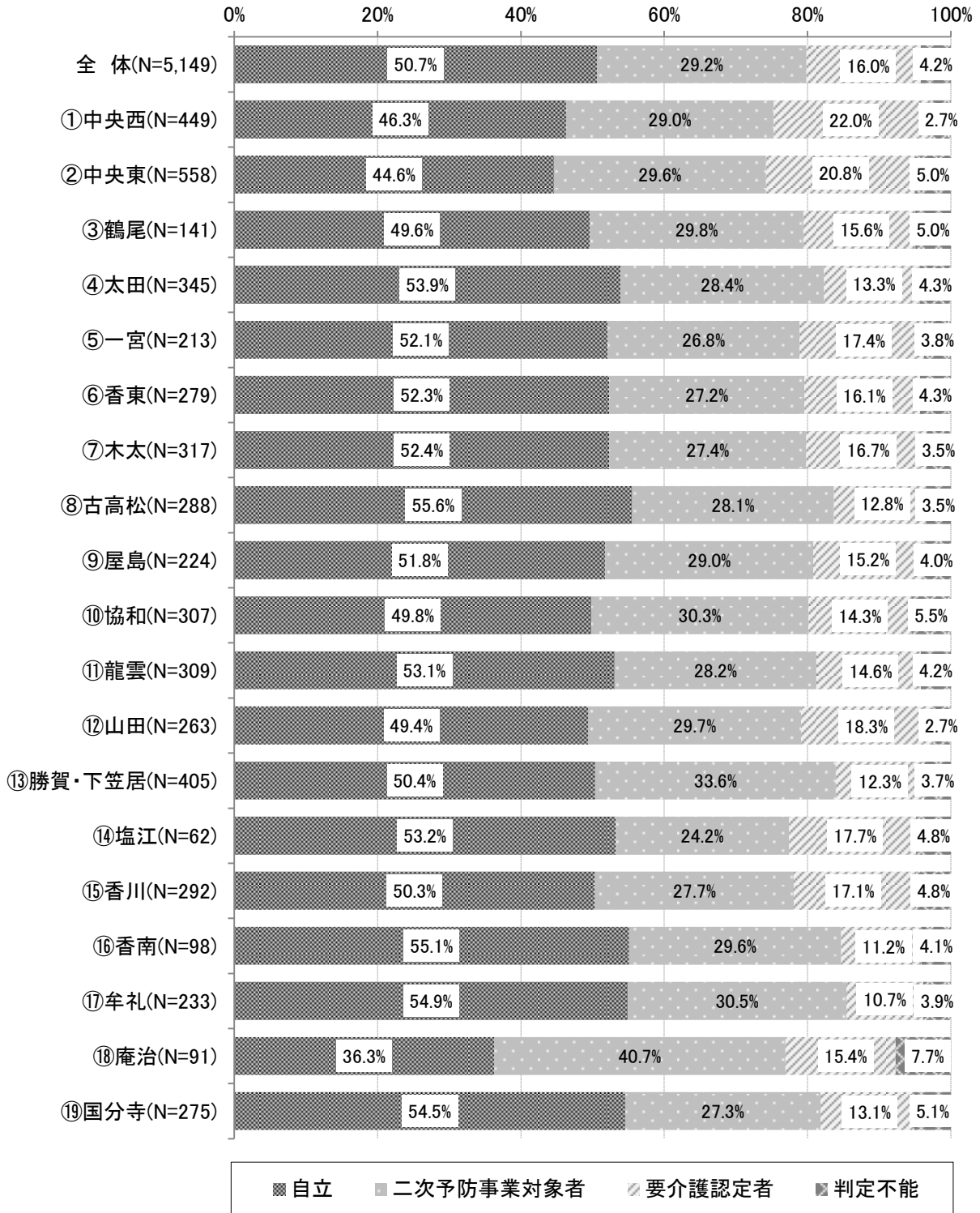
判定項目	問番号	設問	該当する選択肢	
虚弱	6-問1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	「2. できるだけしていない」or「3. できない」	
	6-問2	日用品の買物をしていますか	「2. できるだけしていない」or「3. できない」	
	6-問5	預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるだけしていない」or「3. できない」	
	7-問5	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」	
	7-問6	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」	
	運動器の機能向上	2-問1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. いいえ」
		2-問2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. いいえ」
		2-問3	15分位続けて歩いていますか	「2. いいえ」
		3-問1	この1年間に転んだことがありますか	「1. はい」
		3-問2	転倒に対する不安は大きいですか	「1. はい」
	栄養改善	4-問1	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
		4-問2	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
	口腔機能の向上	4-問3	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
		4-問4	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
		4-問5	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
	閉じこもり予防・支援	2-問5	週に1回以上は外出していますか	「2. いいえ」
		2-問6	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. はい」
	認知症予防・支援	5-問1	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
		5-問2	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
		5-問3	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
うつ予防・支援	8-問8	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	「1. はい」	
	8-問9	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」	
	8-問10	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「1. はい」	
	8-問11	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」	
	8-問12	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」	

■二次予防事業対象者…①から④のいずれかに該当する者

- ①虚弱…該当:10点以上
- ②運動器の機能向上…該当:3点以上
- ③栄養改善…該当:2点
- ④口腔機能の向上…該当:2点以上
- ⑤閉じこもり予防・支援…注意:1点(問2-Q5に該当する場合)
- ⑥認知症予防・支援…注意:1点以上
- ⑦うつ予防・支援…注意:2点以上

■二次予防事業対象者

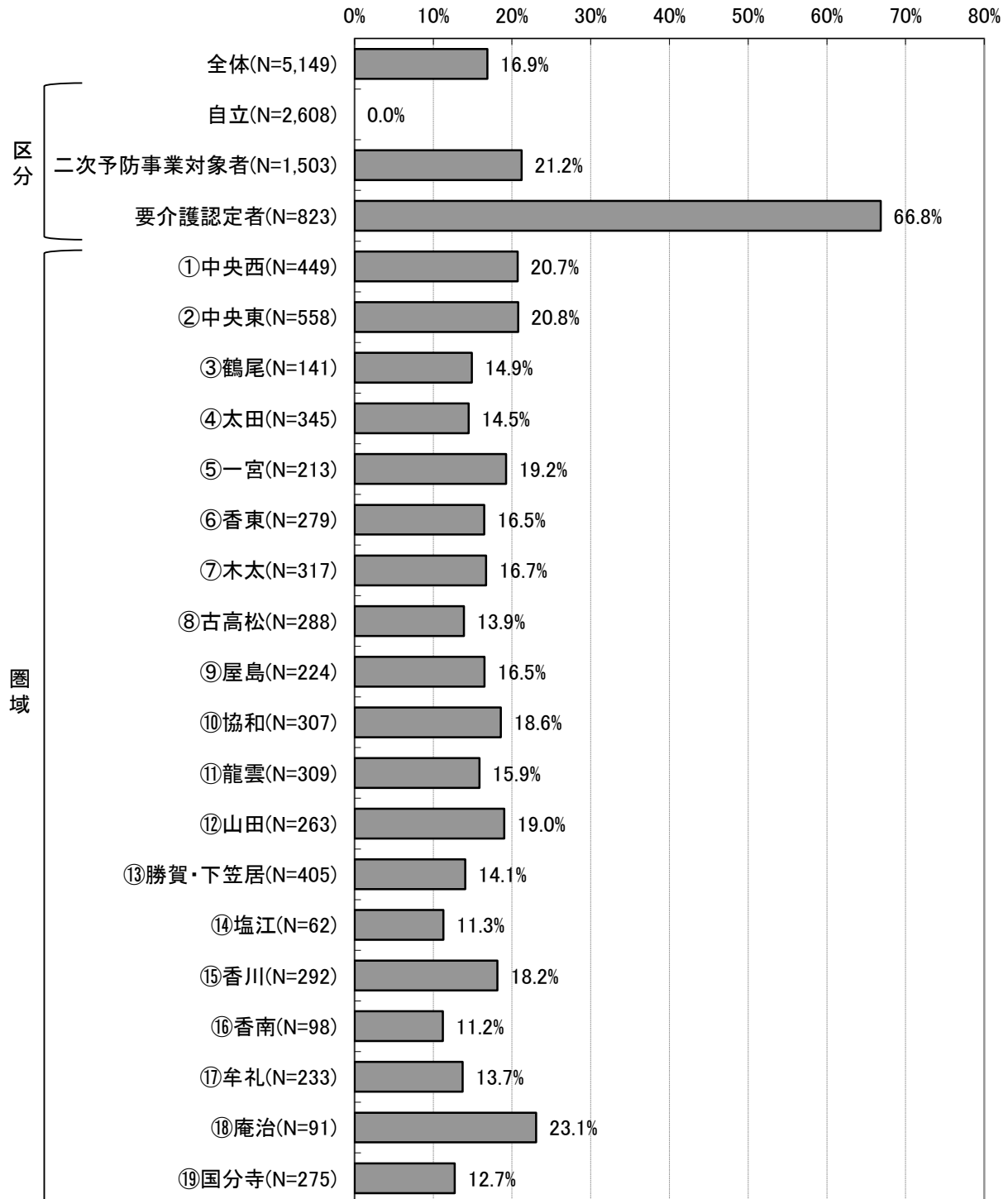
- ・全体では「自立」(50.7%)、「二次予防事業対象者」(29.2%)、「要介護認定者」(16.0%)となっている。
- ・⑱庵治では「自立」が36.3%と低く、二次予防事業対象者が40.7%と高くなっている。
- ・「自立」が多い圏域は、⑧古高松、⑯香南、⑰牟礼、⑲国分寺で、いずれも55%前後となっている。



①虚弱

- ・虚弱のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 21.2%、要介護認定者が 66.8%となっている。
- ・⑱庵治、②中央東、①中央西では該当者の割合が 20%を超えている一方で、⑯香南、⑭塩江、⑲国分寺では 11~12%と低い割合となっている。

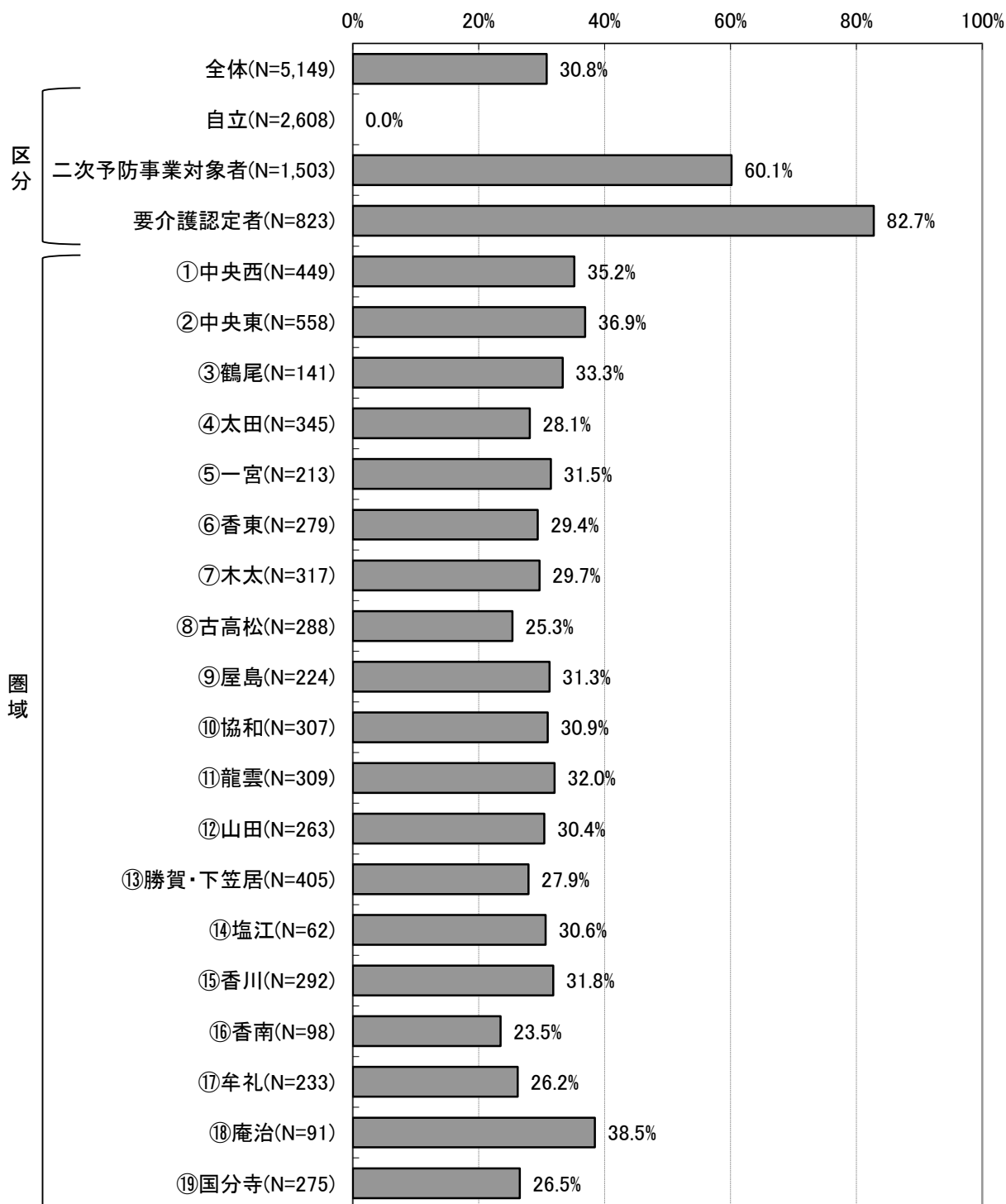
【該当者の割合】



②運動器の機能向上

- ・運動器の機能向上のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 60.1%、要介護認定者が 82.7% となっている。
- ・⑱庵治、②中央東、①中央西では該当者の割合が 35%を超えている一方で、⑯香南、⑧古高松、⑰牟礼、⑲国分寺では 25%程度と低い割合となっている。

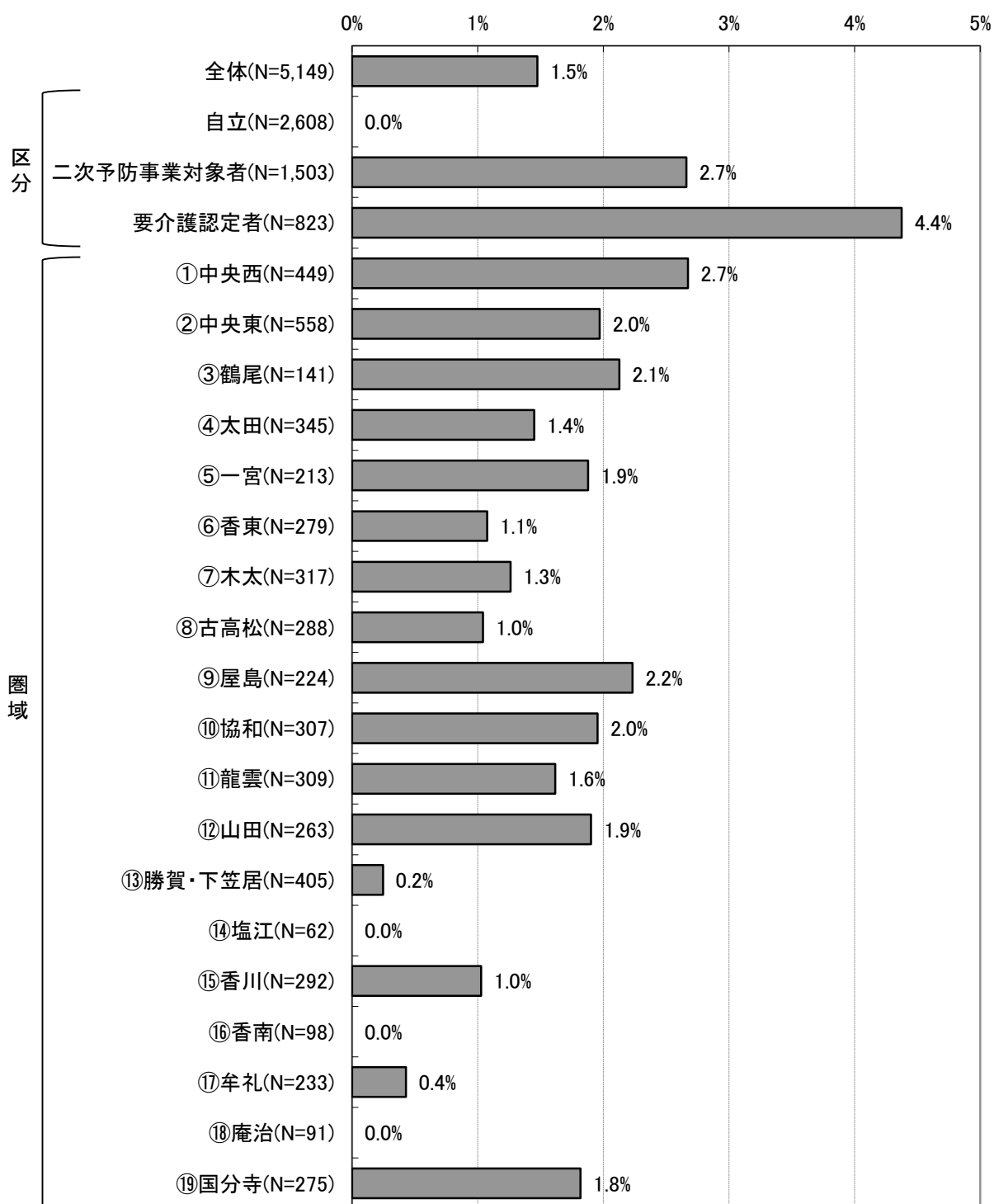
【該当者の割合】



③栄養改善

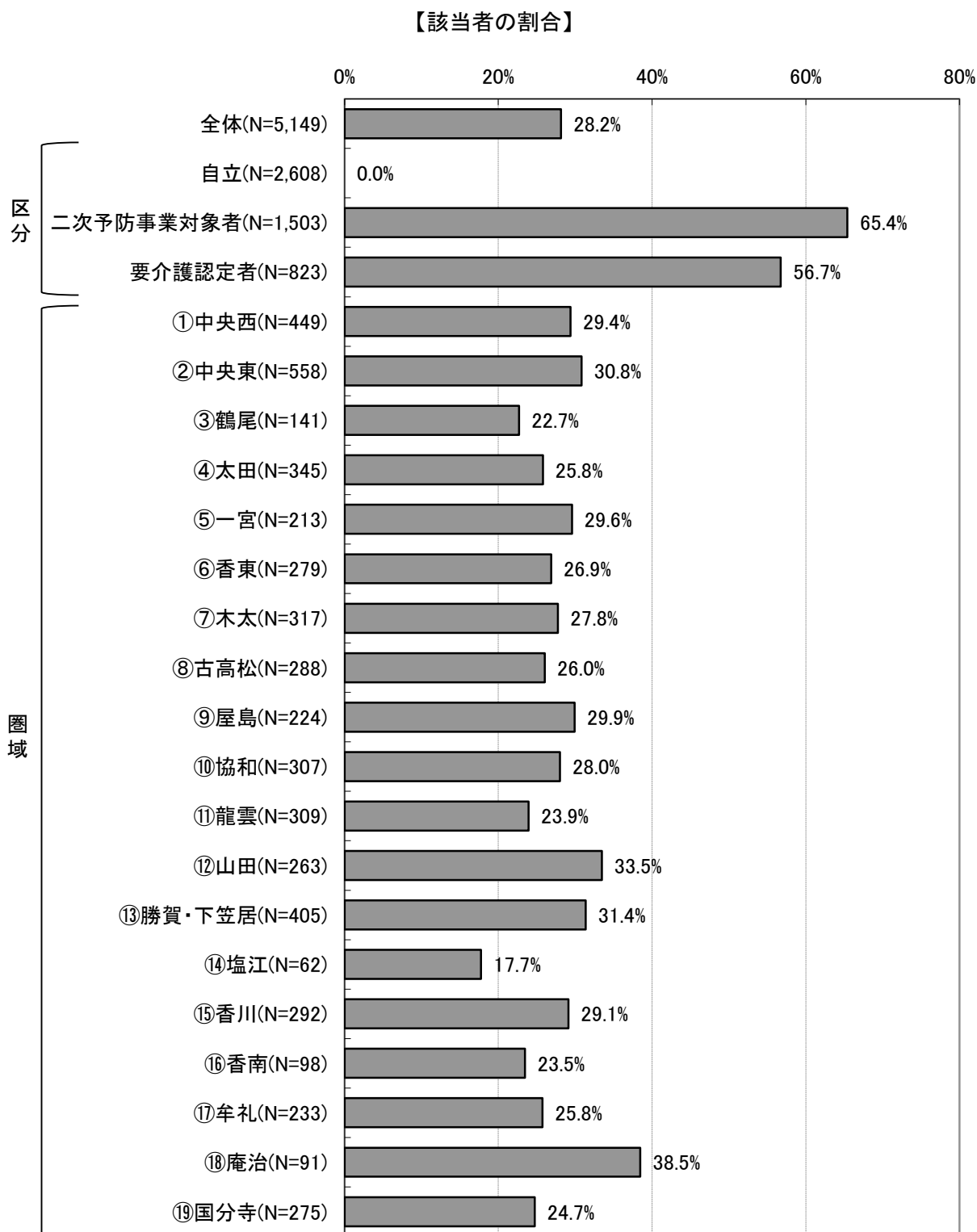
- ・栄養改善のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 2.7%、要介護認定者が 4.4%となっている。
- ・①中央西では該当者の割合が 2.7%と最も高い一方で、⑭塩江、⑯香南、⑱庵治では 0%となっている。

【該当者の割合】



④口腔機能の向上

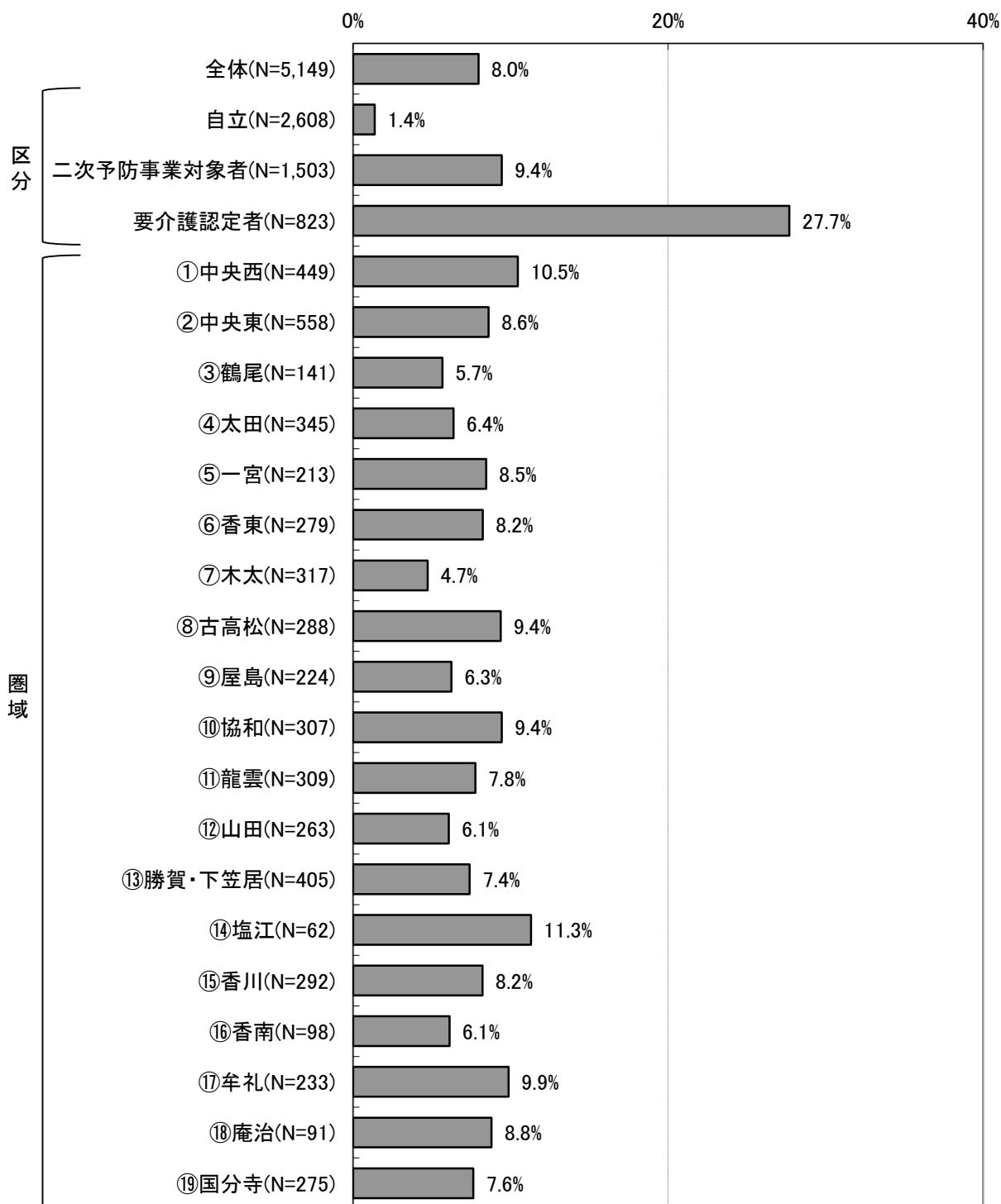
- ・ 口腔機能の向上のリスク該当者の割合は、二次予防事業対象者が 65.4%、要介護認定者が 56.7% となっている。
- ・ ⑱庵治では該当者の割合が 38.5%と最も高い一方で、⑰塩江では 17.7%と⑱庵治の半分程度の値となっている。



⑤閉じこもり予防・支援

- ・閉じこもりの注意者の割合は、自立が 1.4%、二次予防事業対象者が 9.4%、要介護認定者が 27.7% となっている。
- ・⑭塩江、①中央西では注意者の割合が 10%を超えている一方で、⑦木太では 4.7%と最も低い割合となっている。

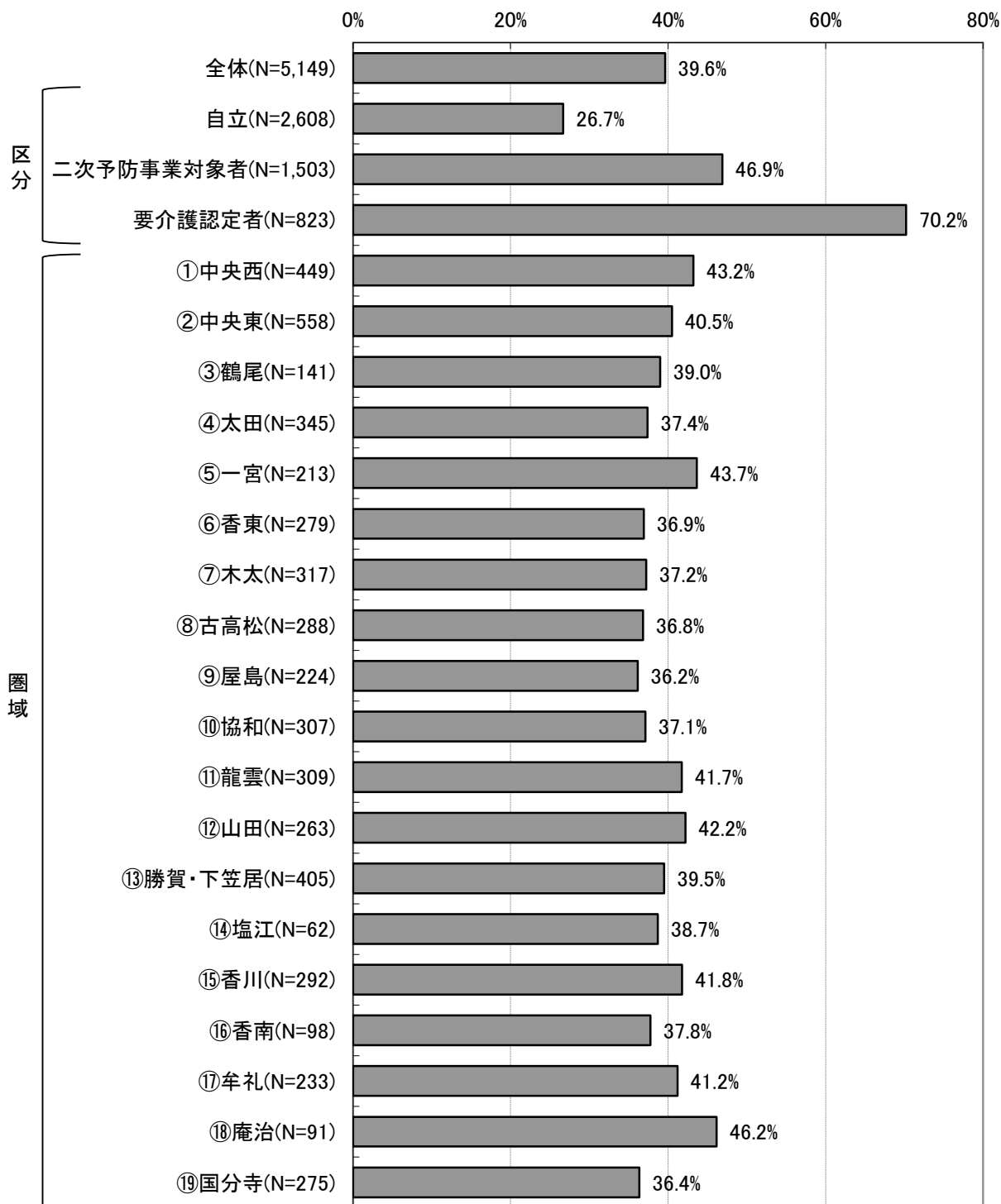
【注意者の割合】



⑥認知症予防・支援

- ・認知症の注意者の割合は、自立が 26.7%、二次予防事業対象者が 46.9%、要介護認定者が 70.2% となっている。
- ・⑱庵治では注意者の割合が 46.2%と最も高くなっている。

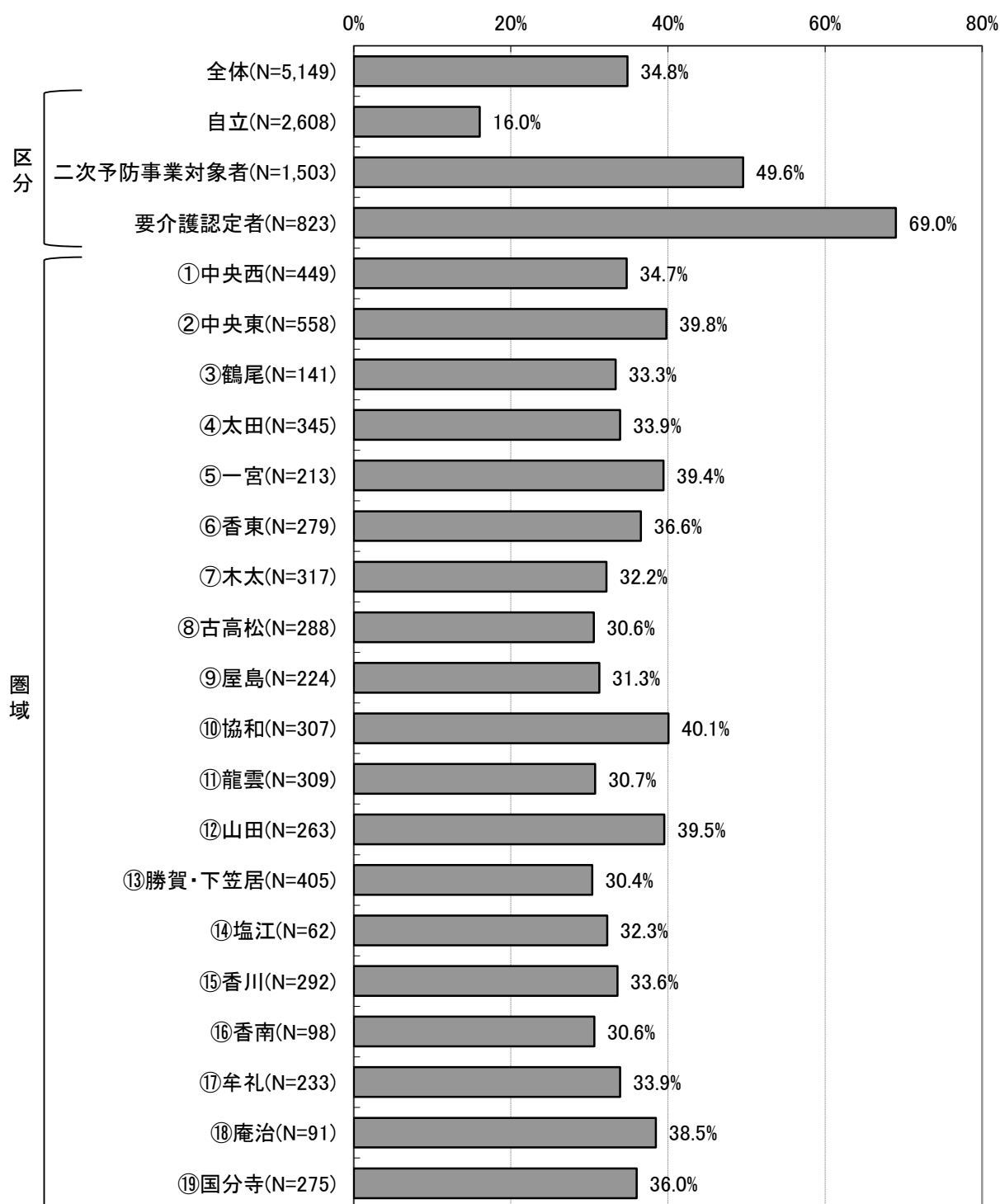
【注意者の割合】



⑦うつ予防・支援

- ・うつ予防の注意者の割合は、自立が 16.0%、二次予防事業対象者が 49.6%、要介護認定者が 69.0% となっている。
- ・⑩協和、②中央東、⑫山田、⑤一宮では注意者の割合が 40%程度と高い一方で、⑬勝賀・下笠居、⑧古高松、⑯香南、⑪龍雲、⑨屋島では 30%程度と低い割合となっている。

【注意者の割合】



2 A D L

● 判定方法

問番号	項目	配点	選択肢
6-問6	食事	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(おかずを切ってもらなど)があればできる」 「3. できない」
6-問7	寝床への移動	15: 10: 5: 0:	「1. 受けない」 「2. 一部介助があればできる」 「3. 全面的な介助が必要」 (問6-Q8の回答が「1. できる」「2. 支えが必要」の場合) 「3. 全面的な介助が必要」 (問6-Q8の回答が「3. できない」の場合)
6-問9	整容	5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助があればできる」または「3. できない」
6-問10	トイレ	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 「3. できない」
6-問11	入浴	5: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」または「3. できない」
6-問12	歩行	15: 10: 0:	「1. できる」 「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 「3. できない」
6-問13	階段昇降	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 介助があればできる」 「3. できない」
6-問14	着替え	10: 5: 0:	「1. できる」 「2. 介助があればできる」 「3. できない」
6-問15	排便	10: 5: 0:	「1. ない」 「2. ときどきある」 「3. よくある」
6-問16	排尿	10: 5: 0:	「1. ない」 「2. ときどきある」 「3. よくある」

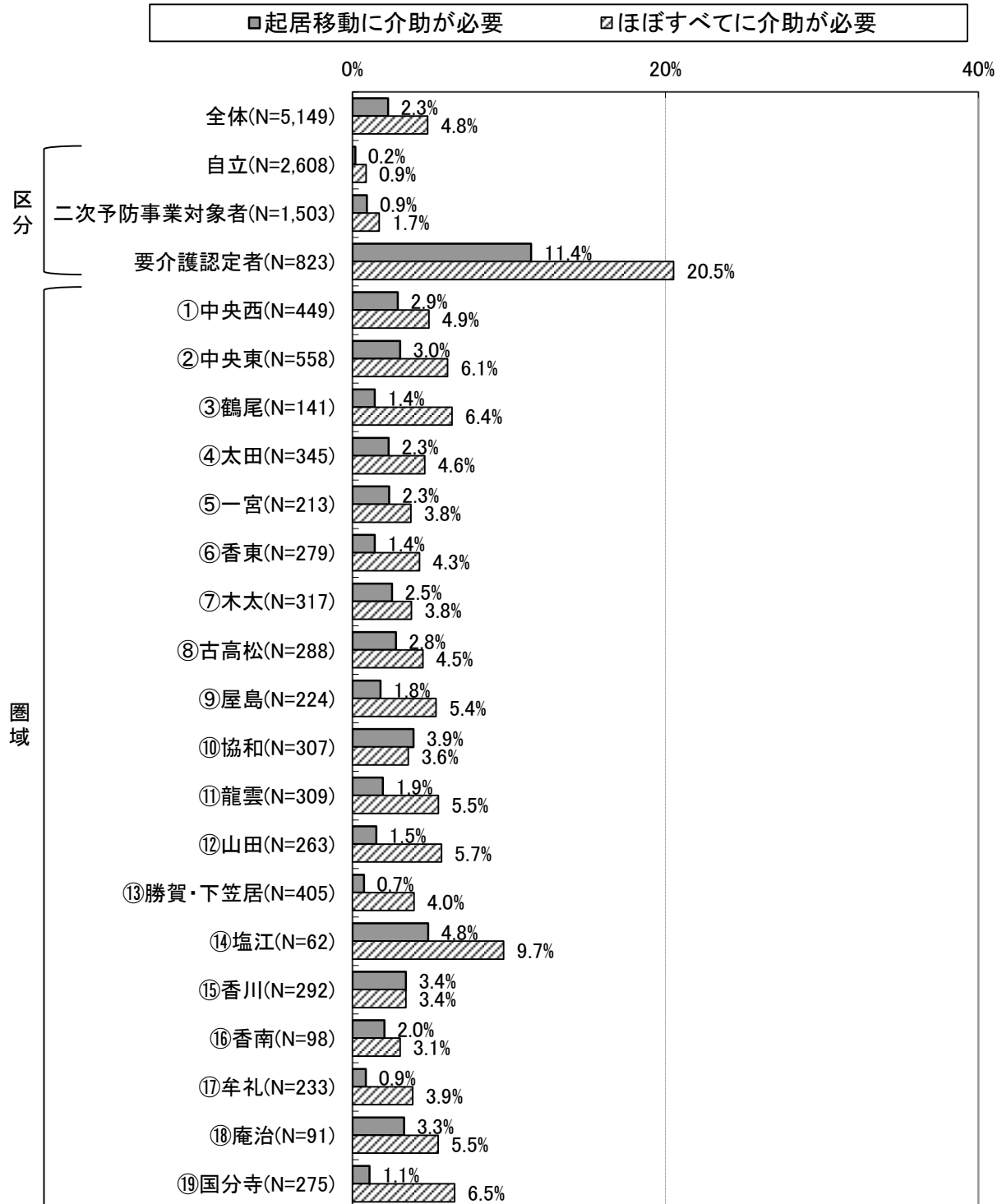
○100点: 自立

○60点以下: 起居移動に介助が必要

○40点以下: ほぼすべてに介助が必要

- ・全体では「起居移動に介助が必要」(2.3%)、「ほぼすべてに介助が必要」(4.8%)となっている。
- ・要介護認定者では「起居移動に介助が必要」(11.4%)、「ほぼすべてに介助が必要」(20.5%)となっている。
- ・⑭塩江では「起居移動に介助が必要」(4.8%)、「ほぼすべてに介助が必要」(9.7%)と、いずれも最も高い値となっている。

【介助が必要な者の割合】



3 老研式活動能力指標

● 判定方法

①IADL(老研指標)…問6-Q1～5

問番号	設問	選択肢
6-問1	バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」または 「2. できるけどしていない」 1点
6-問2	日用品の買物をしていますか	
6-問3	自分で食事の用意をしていますか	
6-問4	請求書の支払いをしていますか	
6-問5	預貯金の出し入れをしていますか	

- 5点: 高い
○4点: やや低い
○0～3点: 低い

②社会参加

・知的能動性(老研指標)…問7-Q1～4

問番号	項目	選択肢
7-問1	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」: 1点
7-問2	新聞を読んでいますか	
7-問3	本や雑誌を読んでいますか	
7-問4	健康についての記事や番組に関心がありますか	

- 4点: 高い
○3点: やや低い
○0～2点: 低い

・社会的役割(老研指標)…問7-Q5～8

問番号	項目	選択肢
7-問5	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」: 1点
7-問6	家族や友人の相談にのっていますか	
7-問7	病人を見舞うことができますか	
7-問8	若い人に自分から話しかけることがありますか	

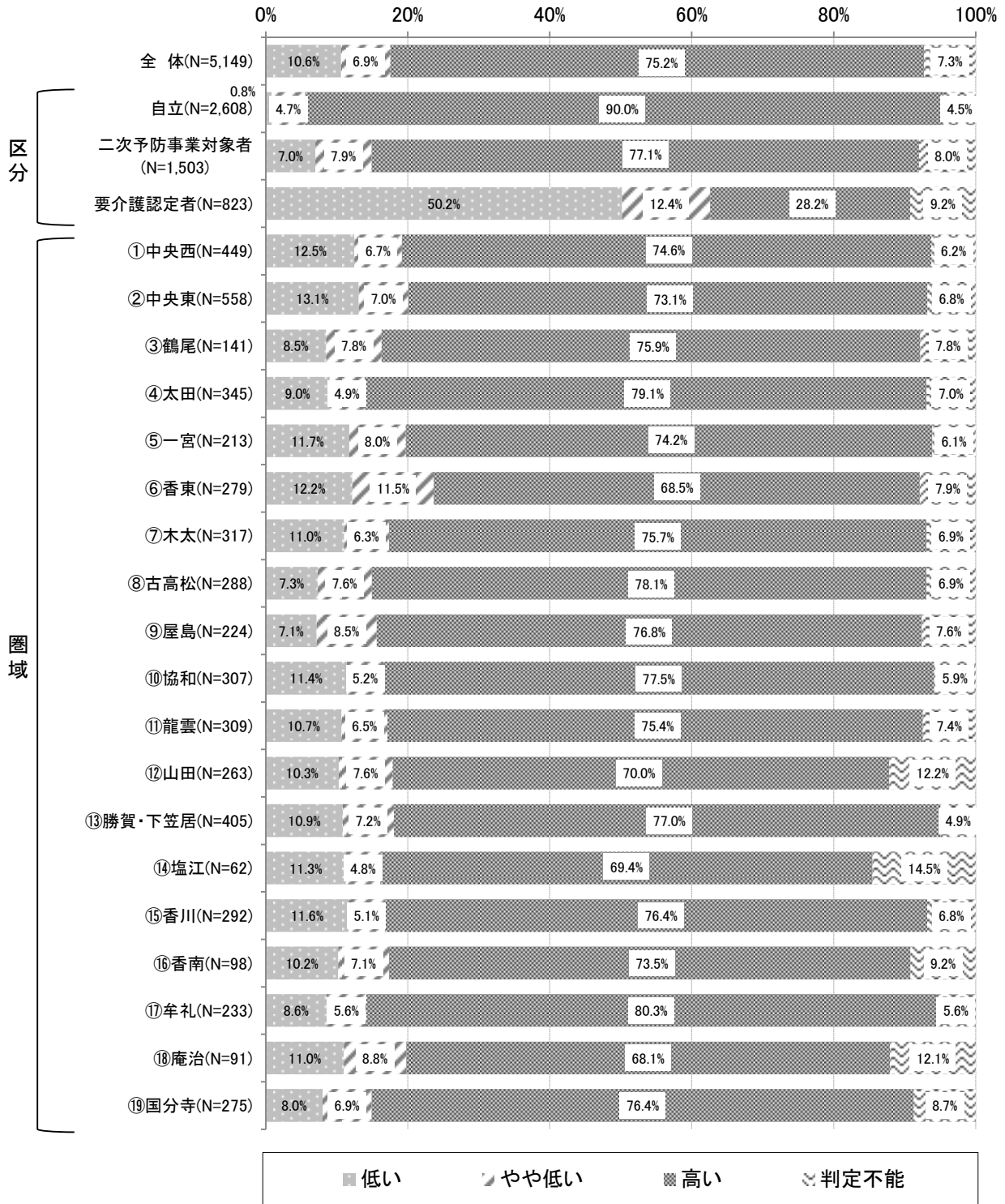
- 4点: 高い
○3点: やや低い
○0～2点: 低い

③老研指標総合評価(IADL、知的能動性、社会的役割の合計点)

- 11点以上: 高い
○9～10点: やや低い
○8点以下: 低い

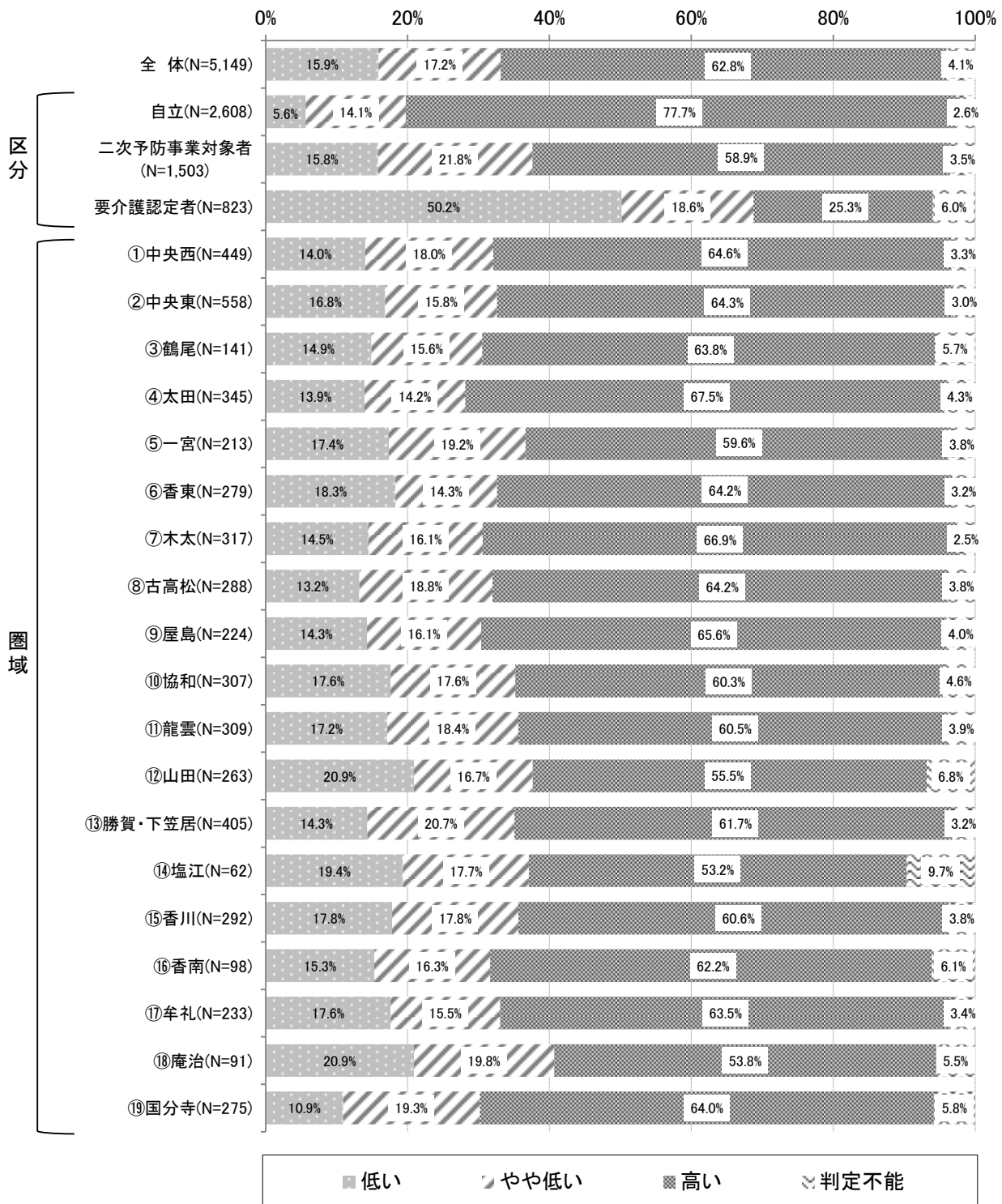
① IADL

- ・全体では「低い」(10.6%)、「やや低い」(6.9%)、「高い」(75.2%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(7.0%)、「やや低い」(7.9%)、「高い」(77.1%)となっている。
- ・⑰牟礼、④太田、⑧古高松では「高い」が80%程度と高くなっている。



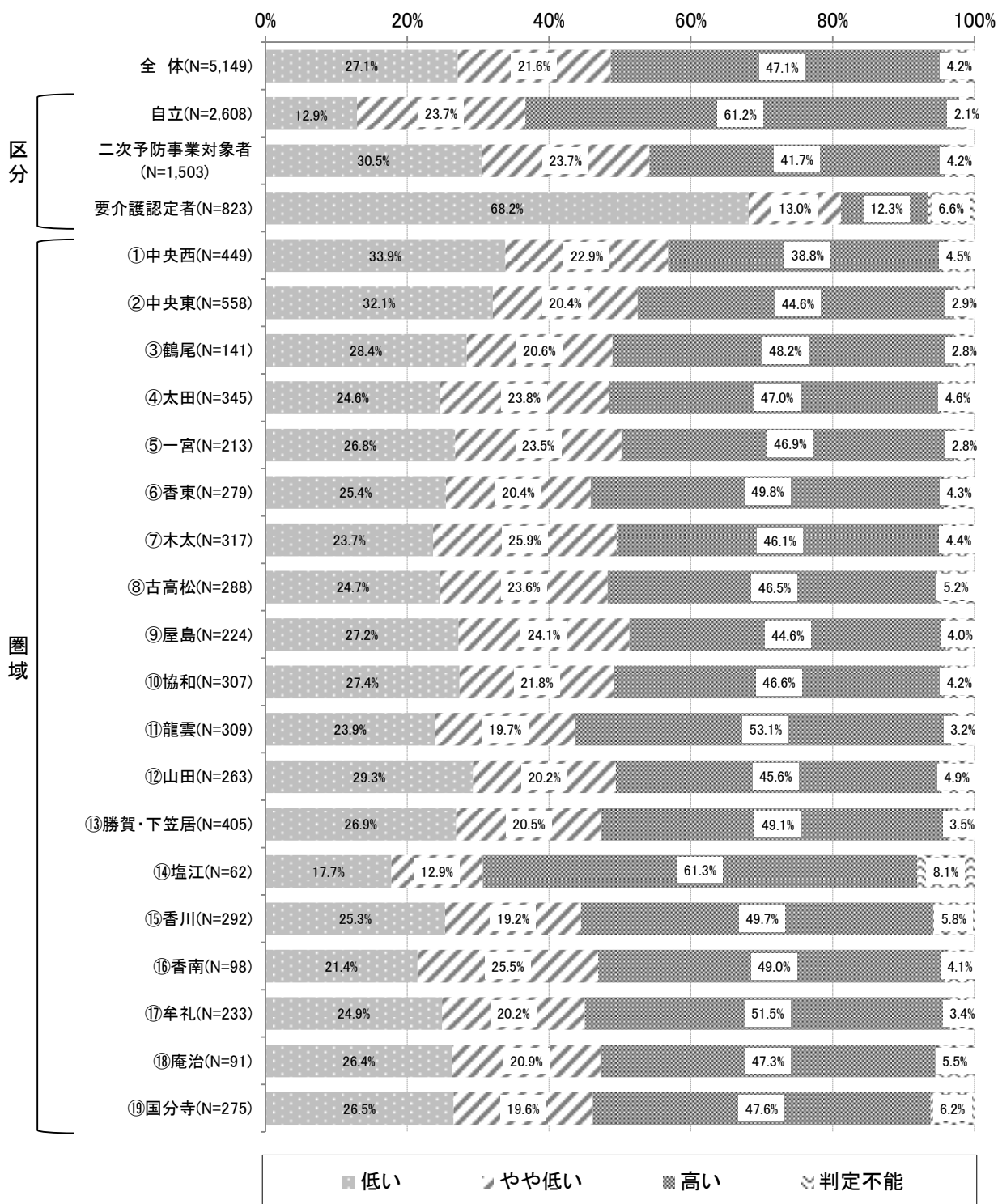
②社会参加（知的能動性）

- ・全体では「低い」(15.9%)、「やや低い」(17.2%)、「高い」(62.8%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(15.8%)、「やや低い」(21.8%)、「高い」(58.9%)となっている。
- ・④太田、⑦木太、⑨屋島では「高い」が65%以上と高くなっている。



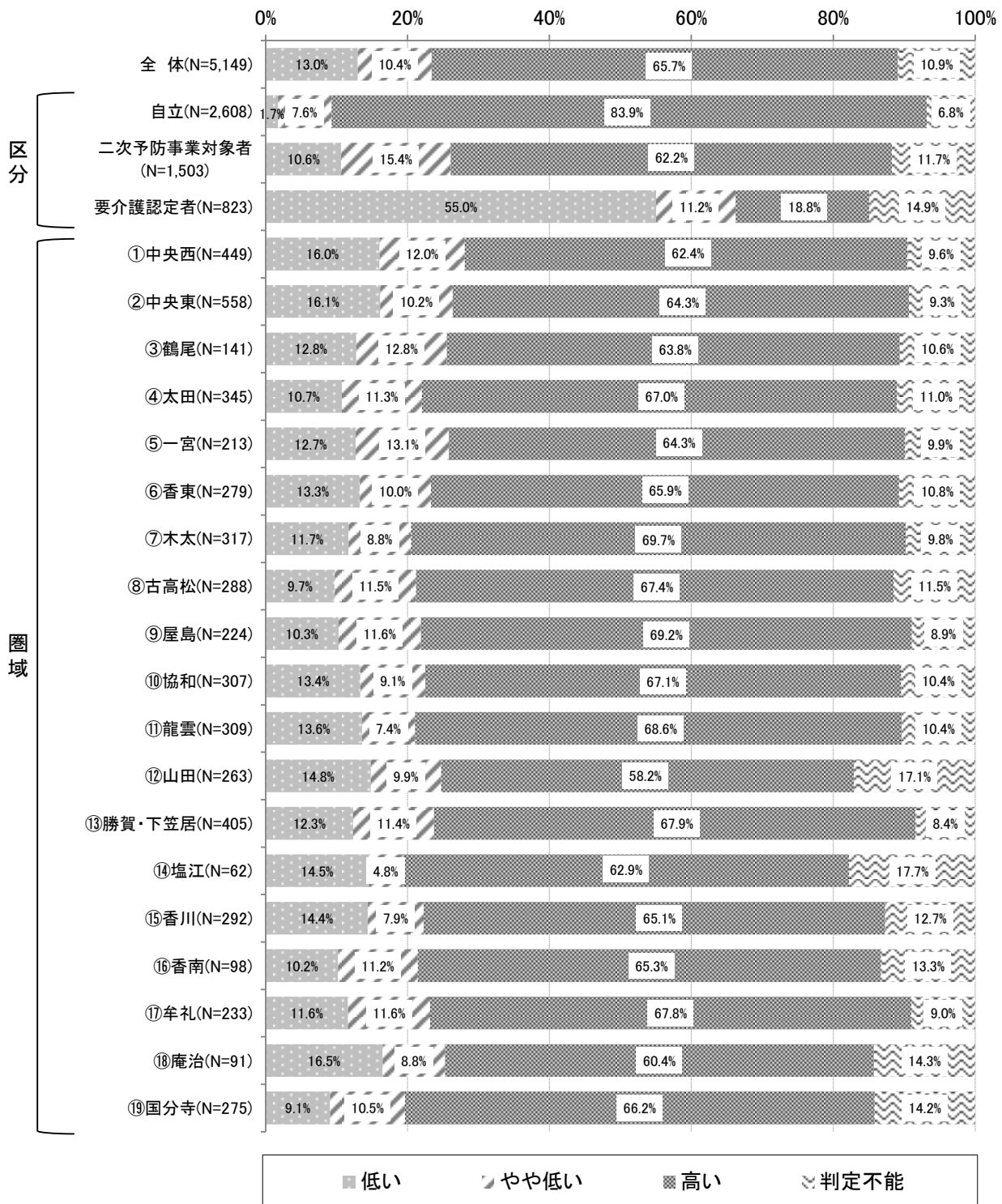
②社会参加（社会的役割）

- ・全体では「低い」(27.1%)、「やや低い」(21.6%)、「高い」(47.1%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(30.5%)、「やや低い」(23.7%)、「高い」(41.7%)となっている。
- ・⑭塩江では「高い」が61.3%と突出して高くなっている。



③老研指標総合評価（IADL、知的能動性、社会的役割の合計点）

- ・全体では「低い」(13.0%)、「やや低い」(10.4%)、「高い」(65.7%)となっている。
- ・二次予防事業対象者では「低い」(10.6%)、「やや低い」(15.4%)、「高い」(62.2%)となっている。
- ・⑦木太、⑨屋島、⑪龍雲では「高い」が70%程度と高くなっている。



4 認知機能

● 判定方法

<ステップ1>

5-問5

その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか
「1. 困難なくできる」
「2. いくらか困難であるが、できる」
「3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」

「4. ほとんど判断できない」の場合、ステップ4へ
1～3の回答の場合、ステップ2へ

<ステップ2>

5-問4

5分前のことが思い出せますか
「2. いいえ」

5-問5

その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか
「2. いくらか困難であるが、できる」
「3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」

5-問6

人に自分の考えをうまく伝えられますか
「2. いくらか困難であるが、伝えられる」
「3. あまり伝えられない」
「4. ほとんど伝えられない」

該当なし

0レベル
障害なし

1項目該当

1レベル
境界的

2項目以上該当の場合、ステップ3へ

<ステップ3>

5-問5

その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか
「3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」

5-問6

人に自分の考えをうまく伝えられますか
「3. あまり伝えられない」
「4. ほとんど伝えられない」

該当なし

2レベル
軽度の障害

1項目該当

3レベル
中等度の障害

2項目該当

4レベル
やや重度の障害

<ステップ4>

6-問6

食事は自分で食べられますか
「1. できる」
「2. 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる」
「3. できない」

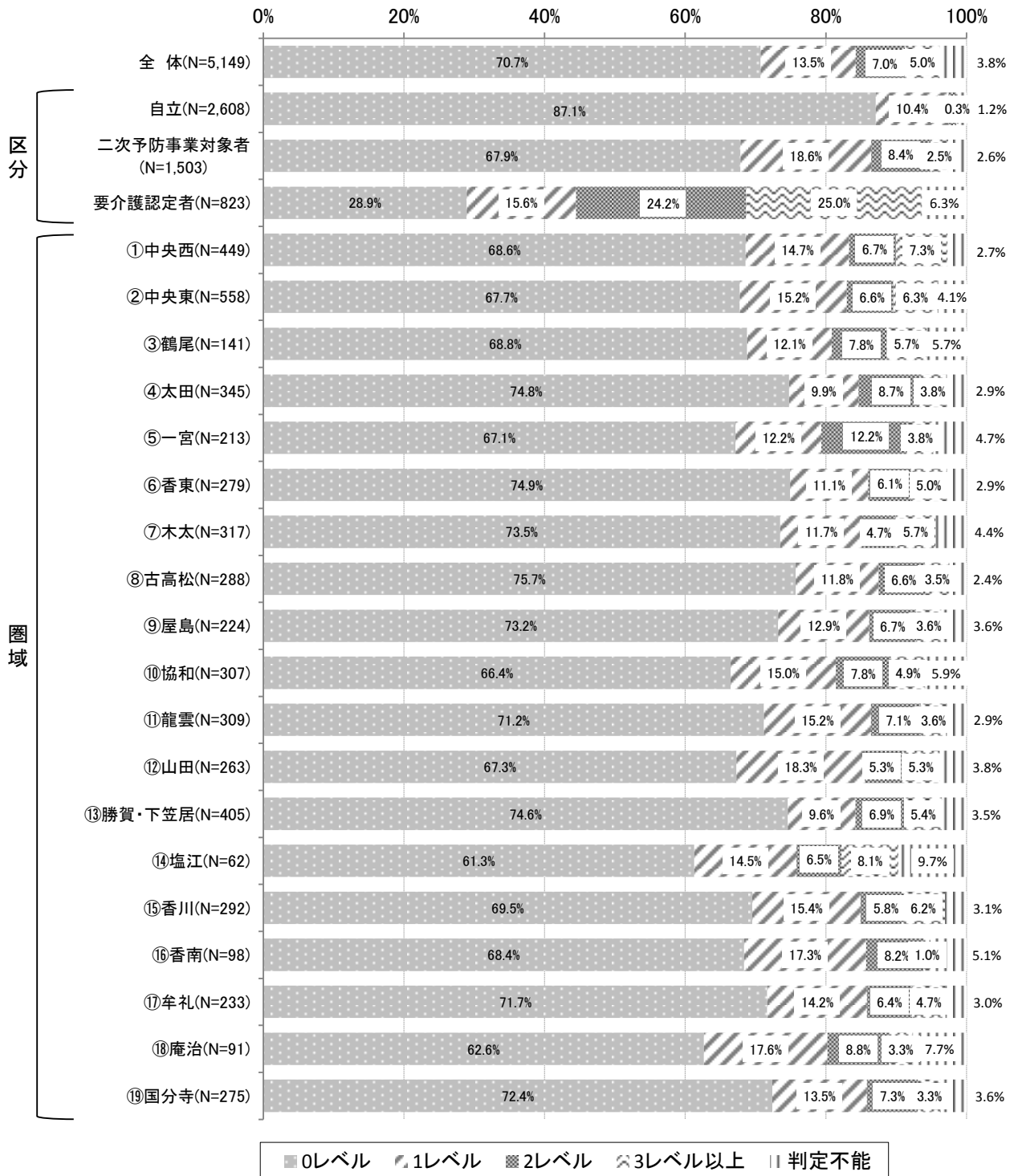
選択肢1、2

5レベル
重度の障害

選択肢3

6レベル
最重度の障害

- ・全体では「0レベル」(70.7%)、「1レベル」(13.5%)、「2レベル」(7.0%)、「3レベル以上」(5.0%)となっている。
- ・要介護認定者では「0レベル」(28.9%)、「1レベル」(15.6%)、「2レベル」(24.2%)、「3レベル以上」(25.0%)となっている。
- ・⑱庵治、⑭塩江では「1レベル以上」が30%程度と高くなっている。



5 転倒リスク

● 判定方法

問番号	設問	配点と選択肢
3-問1	この1年間に転んだことがありますか	5:「1. はい」 0:「2. いいえ」
3-問3	背中が丸くなってきましたか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
3-問4	以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
3-問5	杖を使っていますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
8-問3	現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか	2:「5. 5種類以上」 0:「1~4または6

○6点以上:リスクあり

- ・リスクありの者の割合は、全体では 32.9%、自立では 10.1%、二次予防事業対象者では 53.2%、要介護認定者では 73.8%となっている。
- ・要介護認定者では「0 レベル」(28.9%)、「1 レベル」(15.6%)、「2 レベル」(24.2%)、「3 レベル以上」(25.0%) となっている。
- ・⑭塩江ではリスクありの者の割合が 40.3%と高い一方、⑰牟礼、⑯香南、⑬勝賀・下笠居では 27%程度と低くなっている。

【リスクあり（6点以上）の者の割合】

